

イノベーションを仕組みにする！ISO56001 実践マスター 無料講座

～ ISO56001を活用すれば、変革は仕組み化できる～
～実践的マネジメント手法を体系的に解説～



会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

ごあいさつ

ごあいさつ



私たち、システムコンシェルジュは「人」と「信頼」を最も大切にする会社です。決して自分たちだけの成長を追い求め、利益を追求するのではなく、常にお客さまのお困りごとに耳を傾け、お客さまとともに解決していくことで、エンジニアをはじめとする私たちのチームは成長します。その結果、お客さまに継続して価値を提供するイノベーションを実現し、関係する人々が幸せになるようなエコシステムの実現をめざします。

エンジニアとお客さまが幸せになれる会社へ

代表取締役
飯田 健夫



会社概要

会社概要

会社名	株式会社システムコンシェルジュ	設立	2005年7月26日
代表取締役	飯田 健夫	資本金	1,000万円
所在地	東京都千代田区神田錦町2-11-7	従業員数	45名（役員・従業員・契約社員含む）
TEL	03-5577-5735	事業内容	・イノベーション創出・組織文化醸成事業 ・ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）事業 ・ジェネレーティブプロバイダー事業
拠点	大阪オフィス 大阪府大阪市北区梅田2丁目5番8号 千代田ビル西別館3階G号室 宮古島オフィス 沖縄県宮古島市平良字西里1018番地1 マティダヒルズ102号	主な取引先 (50音順)	株式会社エヌオーイー 株式会社飯田産業 岐阜女子大学 株式会社SOYOKAZE 株式会社スコープ 田島ルーフィング株式会社 TIS株式会社 株式会社ヒューマントラスト 株式会社阪急交通社 株式会社マクスコーポレーション メディカル・データ・ビジョン株式会社 株式会社ユニマットライフ
福利厚生	関東ITソフトウェア健康保険組合 福利厚生サービス：リロクラブ オフィス内：リフレクソロジー/カイロプラクティック/ロルフイング/コーヒー無料 退職金制度		

当社の強み

当社の強み



IT Infrastructure (IT基盤技術)

堅牢なIT基盤がなければアプリケーションを稼働させることはできません。私たちはThe Linux Foundationを支援する日本を代表するエンジニアを技術顧問とし、最新のIT技術を求めつつ、過去の技術にも目を向けお客さまが求める最適な技術の探求とサービス提供を行います。

IT Tools (先進的なツール活用)

変化に素早く対応するには、活用できる技術やツール、ライブラリなどを知り、実際に利用することが重要です。私たちはITツールや技術を探求し、実際に体感することで最高のサービスが提供できると考えています。私たちの社内では多くのツールを活用しています。

IT Practices (成功と失敗によって研鑽される方法論)

ツールや技術自体は価値とはいえません。価値を感じてくれるお客さま、喜んでくれる方々がいて価値に変えることができます。予測不可能な社会のなかで継続的な価値を提供するために、日本初の国際標準規格ISO56002 (イノベーション・マネジメントシステム) の認証を取得し、他では実践していないイノベーションの仕組みを作りました。この仕組みや方法論をお客さまへサービス提供し、「私たちからお客さまへ」「お客さまから私たちへ」それが私たちの考えるチームワークと価値あるサービスの方法論です。

当社の強み

日本初のISO56002、及びISO56001の認証取得



イノベーションの国際標準規格「ISO56001」とは

「ISO56001」は、世界中のイノベーションを起こした企業のマネジメント手法を分析し、考え方や方法論を標準化したイノベーション・マネジメントシステムの国際標準規格です。新しい価値を創出し、価値の継続と向上を実現するためのガイドラインです。

人材育成・組織開発に関するアワード受賞



【ラーニングイノベーションアワード2023】とは

人的資本情報の開示が義務化され、人的資本経営への注目が日々高まる中、多くの日本企業が人材投資による取り組みを加速しています。ALL DIFFERENT株式会社は、人材育成に取り組む企業に様々な事例を紹介し、新たな知見や視点を提供するために、年に一度「ラーニングイノベーションアワード」を開催し、人材育成・組織開発において優れた取り組みを行っている企業を表彰しています。ラーニングスパイラル賞は、「気づく」「学ぶ」「できる・変わる」「続ける」の全ステップを構築し、実効を上げている企業に授与されます。

主要な顧客

旅行・観光業界



金融・保険業界



製造業界



介護・ヘルスケア業界



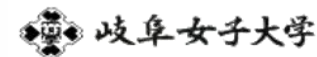
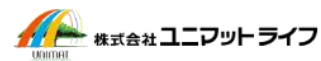
広告・メディア業界



IT業界



その他、人材派遣・飲食など



地方自治体



4つの事業内容

お客様の
経営課題

対話・共感
調査・検証

最適な解
決方法

継続可能
な運用

ジェネレーティブプロバイダー事業

ジェネレーティブプロバイダーとは、課題となるキーワードを伝えるだけで、解決策や最適なITツールの選定、導入から運用まで支援できる「コンサル能力を持つITプロバイダー」のことで、私たちは豊富な知識と経験で、信頼されるITサービスを提供します。

デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- インベション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

ITインフラエンジニアリング事業

可用性・完全性・機密性が確保されたIT基盤によって、お客さまは継続的にITサービスが利用できます。私たちのセキュリティ、ネットワーク、データ保護、稼働監視などの基盤技術によってお客さまの継続的なビジネスとITサービスを支えます。

ビジネスプロセスアウトソーシング事業

お客さまのIT運用業務の深刻な人材不足を私たちの専門チームが支援します。お客さまがIT戦略機能を取り戻し、IT資産管理やヘルプデスク、PCキittingなどの実作業領域を当社の専門チームが行います。ホスピタリティを重視した私たちのサポート力を実感してください。

最適な方法 (Process)

各種マネジメントシステム

(ITサービス管理、インベション管理、ナレッジ管理、プロジェクト管理、セキュリティ管理、人工知能 (AI) 管理など)

フレームワーク / ガイドライン

(Scaled Agile Framework®, ISO56002/ISO56001、ISO30401、ISO9001、ISO42001、ISMS、セキュリティ基準など)

経験・実績

(統合基幹業務システム、ビジネスインテリジェンス (BI)、文書情報管理、グループウェア、セキュリティなど)

高い技術力 (Technology)

ハードウェア (サーバー、ネットワーク機器・無線LAN、PC、PBX、IP電話など)

ソフトウェア (OS、アプリケーション、データベース、ミドルウェアなど)

セキュリティ

(ネットワーク/エンドポイント/SASE/ゼロトラスト/アプリケーションセキュリティなど)

デジタルトランスフォーメーション

(RPA、iPaaS、DWH、BI、生成AI、テキストマイニングなど)

信頼される人 (People)

プロジェクトマネジメント力 (アジャイル・スクラム、ウォーターフォールなど)

インベション力 (インベション国際資格、インベションプロフェッショナル資格など)

技術力 (AWS資格、Oracle資格、LPIC/LinuC資格、CCNA資格、その他IT関連資格など)

業務理解力 (簿記、販売士、旅程管理主任者、社労士、その他業務資格など)

デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

デジタルトランスフォーメーション(DX)

新しい価値の創造と創出
継続的な成長とカイゼン

データ蓄積と分析基盤

分析レポート・BIツール



データ基盤 / 分析レポート



プロセスのデジタル化

エンタープライズ・ワークフロー

MAJOR FLOW

業務の自動化 : RPA

BizRobo!

ローコード・プラットフォーム



イノベーション管理

イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理



デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

デジタルトランスフォーメーション(DX)

新しい価値の創造と創出
継続的な成長とカイゼン

データ蓄積と分析基盤

分析レポート・BIツール



データ基盤 / 分析レポート



プロセスのデジタル化

エンタープライズ・ワークフロー

MAJOR FLOW

業務の自動化 : RPA

BizRobo!

ローコード・プラットフォーム



イノベーション管理

イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理



デジタルトランスフォーメーション事業

予測困難なビジネス環境でも継続的な成長を実現するDX化に必要な3つの要素について、最適なITツールでDX化を実現します。

- データの蓄積と分析基盤
- プロセスの自動化、データ連携
- イノベーション管理/プロジェクト管理/ナレッジ管理

デジタルトランスフォーメーション(DX)

イノベーション管理

ISO56001コンサルティングサービス

国内初のISO56002/ISO56001の両方を取得した株式会社システムコンシェルジュが、現状分析アセスメント、マニュアル、規定などの文書類、運用開始時に必要な力量などを行い、適合表を発行します。企業におけるイノベーション機能の検査に最適なサービスです。

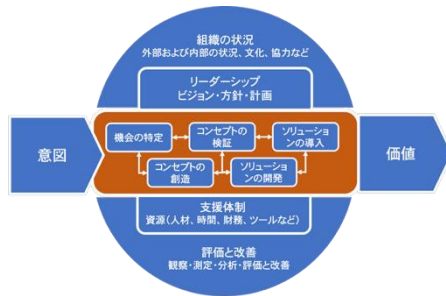
イノベーション管理ツール導入サービス

米国のイノベーション活動を2008年から現在まで支えているイノベーション管理ツール『IDEASCALE』の導入支援サービス。その他、プロジェクト管理、ナレッジ管理の導入支援サービスも提供。

イノベーション組織変革支援サービス

イノベーション組織への変革には、仕組み(制度)と役割、権限に適合したヒトの思考(リテラシー)が必要不可欠です。そのための人的力量を高めるための教育講座を提供しています。

- ・GIMI イノベーション国際認定資格取得講座
- ・エフェクチュエーション基礎講座



イノベーション管理のデファクトスタンダード



ナレッジ管理



プロジェクト管理

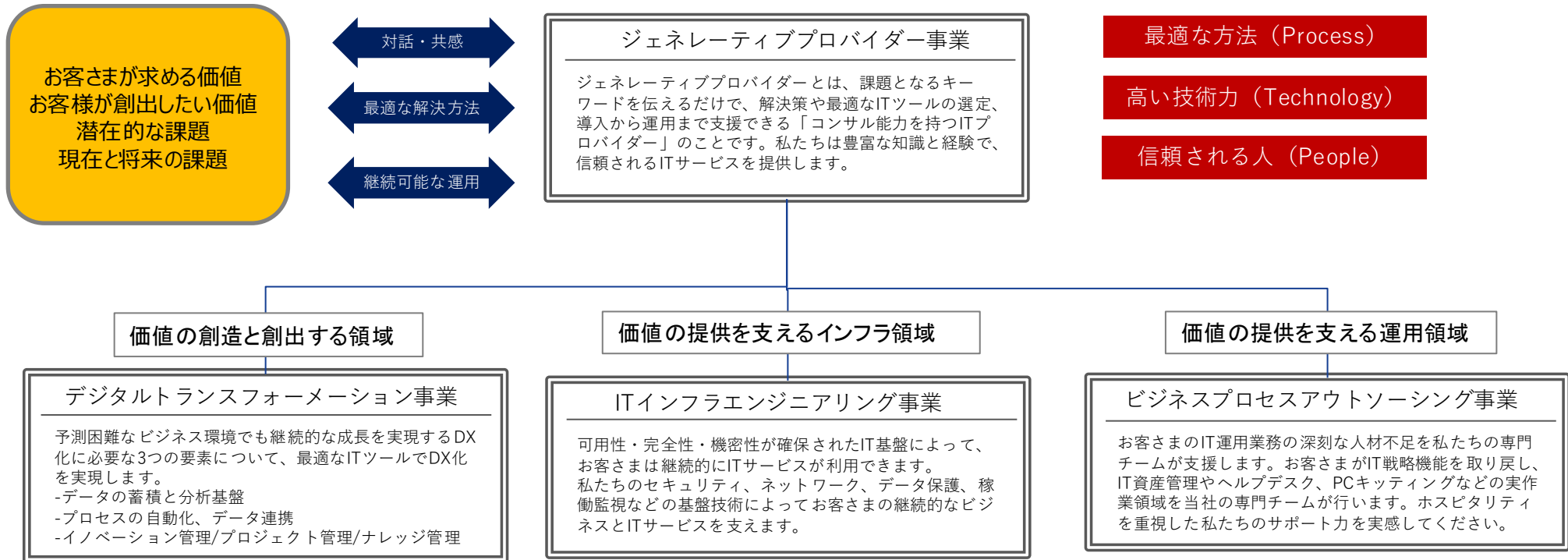


国際的なイノベーション方法論



国際的なイノベーション思考法：エフェクチュエーション

ジェネレーティブ・プロバイダー(価値創出型(Generative)ITサービス企業のこと)



会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

スピーカー紹介

大塚 和彦 (おおつか かずひこ)



株式会社システムコンシェルジュ
取締役 兼 Chief Innovation Officer

略歴

1967年、埼玉県でアセンブリ工場の勤務を経て、**新規事業開発 / 新規顧客開拓**がやりたい
大学卒業後、営業職を希望し、リコー情報システム株式会社（現リコージャパン）
に入社。MA営業部に在籍し、主に新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる。その
後も数社にて営業職として活躍する経験をもつ。

ナレッジ管理

2023年4月、株式会社システムコンシェルジュに入社し、インフラ・アプリケーションなど多種多様な経験から、お客さまのお悩みを解決するコンシェルジュとして活動を行

文書情報管理

プロジェクト管理

事業継続

20代：新卒から入社2年目頃から新規事業や

30代前半：家業の製麺会社にてラーメン店、中華料理店に良材を提供

30代後半：大手SI関連会社にて新規顧客、

40代前半：海外製品の日本法人立ち上げ、**イノベーション・マネジメントシステム**

40代後半：大手SI会社のオープンソース事業に関わる

50代前半：2019年2月にIPOしたプロジェクト管理／ナレッジ管理の会社に関わる

現在：新規事業、新規顧客、IPOなどの経験を活かし、イノベーション管理ツールをベースとした
価値創造の仕組みや方法論のサービス提供

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

本セミナーの目的

1. イノベーションの必要性を知る
2. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の概要の理解
3. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の実践方法を知る
4. 株式会社システムコンシェルジュのサービスの理解

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

なぜイノベーションが必要なのか？

少子高齢化／人口減少による影響

過去のやり方では生産性向上は見込めない

国内市場の自然成長が見込みにくい

過去のマネジメント手法の限界

ビジネス環境を予測できない



～ 経営側 ～

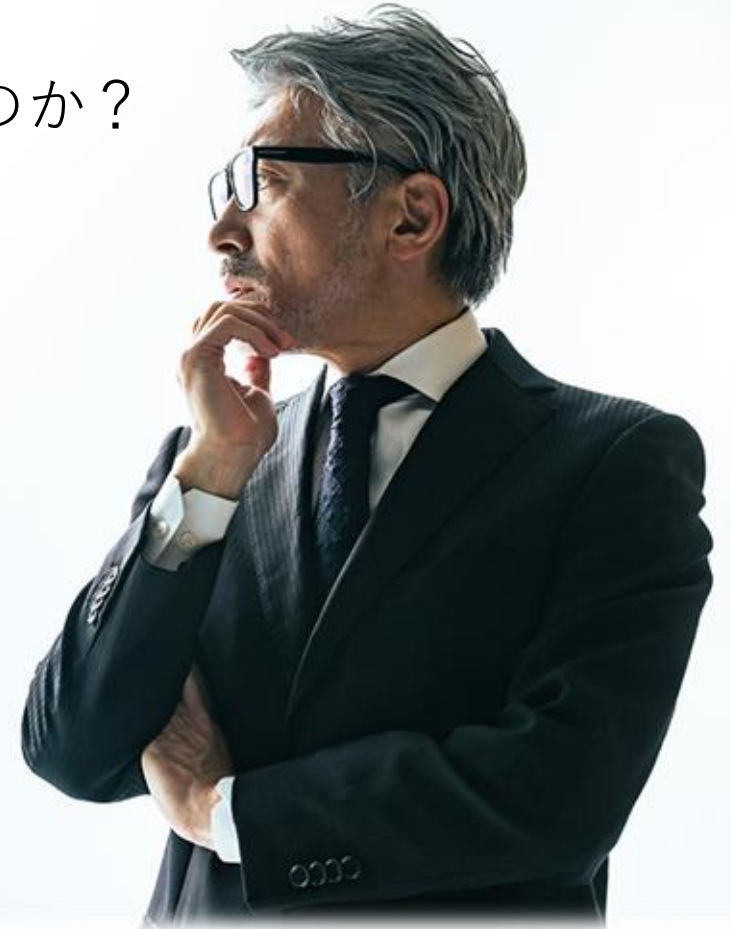
予測できない環境で、どうやって成長するのか？

変わらなければ、価値を維持できない

利害関係者への責任が果たせない

数字も大事だが、将来の成長も考えないと

いまの従業員で「変えること」ができるのか？





～ 従業員側 ～

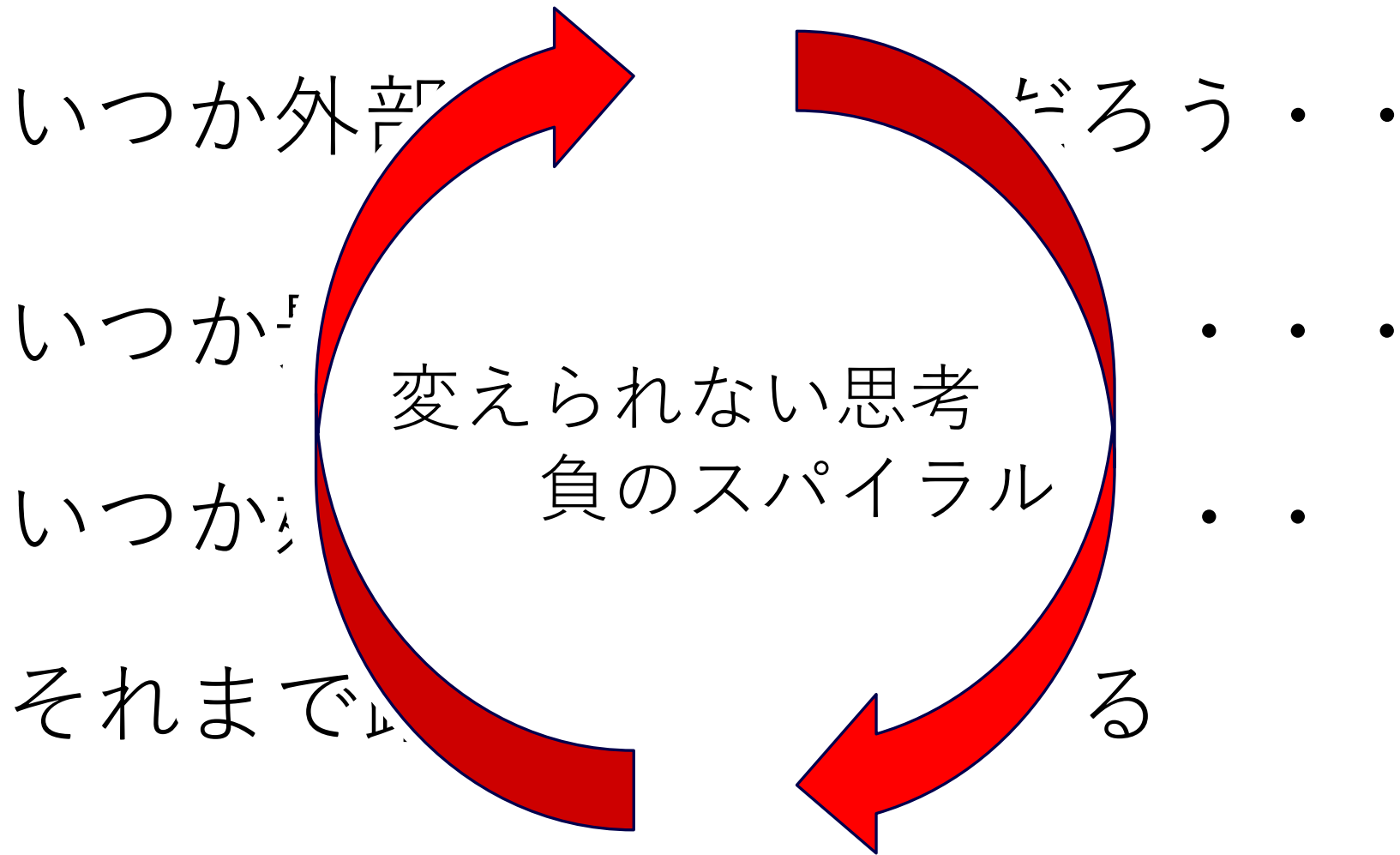
リスク報告や改善要望を
出しているのに変わらない

このまま変わらなければ、
顧客の期待に応えられない

従業員のモチベーションは低下している

数字だけが重要視されている

経営側に「変えること」は期待できない



なんとかしなければ、、、

結果として個人を変える動きをしてしまいます

1 on 1の強化
(面談頻度を増やす)

研修・教育の拡充
(DX研修／イノベーション
研修／デザイン思考等)

コーチング／メンタリング
の導入 (外部コーチ含む)

評価制度の行動項目強化
(OKRなどの導入)

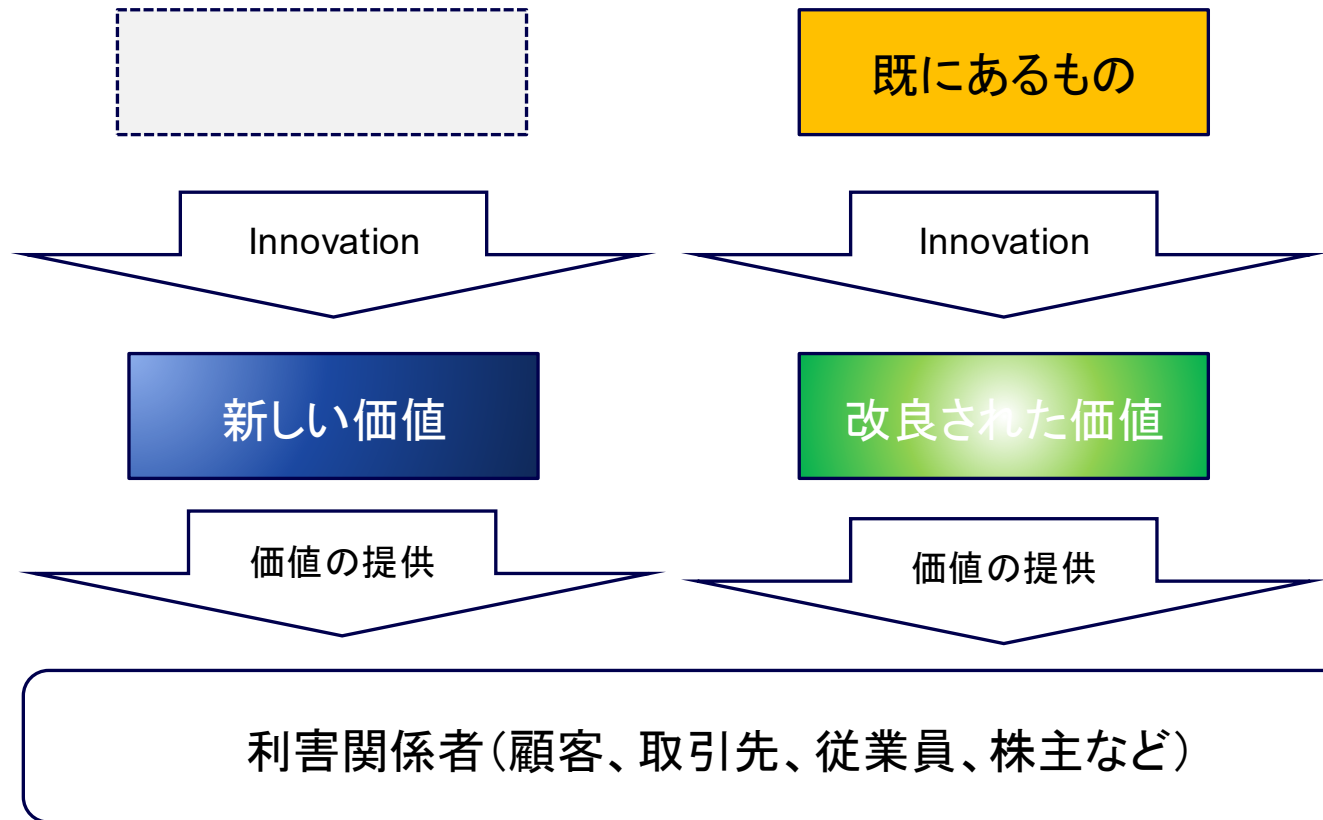
モチベーション施策
(表彰、社内ピッチ、アイデアコン
テスト、インセンティブ)

他社で実績があり、結果も出ているからやってみよう

イノベーションとは





イノベーションとは

イノベーション (innovation) とは、価値を創出する新しいものを実現すること。
“new or changed entity realizing or redistributing value.”



イノベーションの分類

オスロマニュアル（※）に記載される4つのイノベーション分類

<p>プロダクト・イノベーション</p> <p>新しい商品・サービス（技術革新）や既存の商品・サービスを改善して市場に投入すること</p>		<p>プロセス・イノベーション</p> <p>製造、流通の仕組みを新しく、または既存のものを改善して導入すること</p>	
<p>組織イノベーション</p> <p>新しい価値を生み出すためにふさわしい組織のマネジメント方法を導入すること</p>		<p>マーケティング・イノベーション</p> <p>新しい顧客の開拓方法や販売方法を生み出すこと</p>	

プロジェクト管理にも波及している

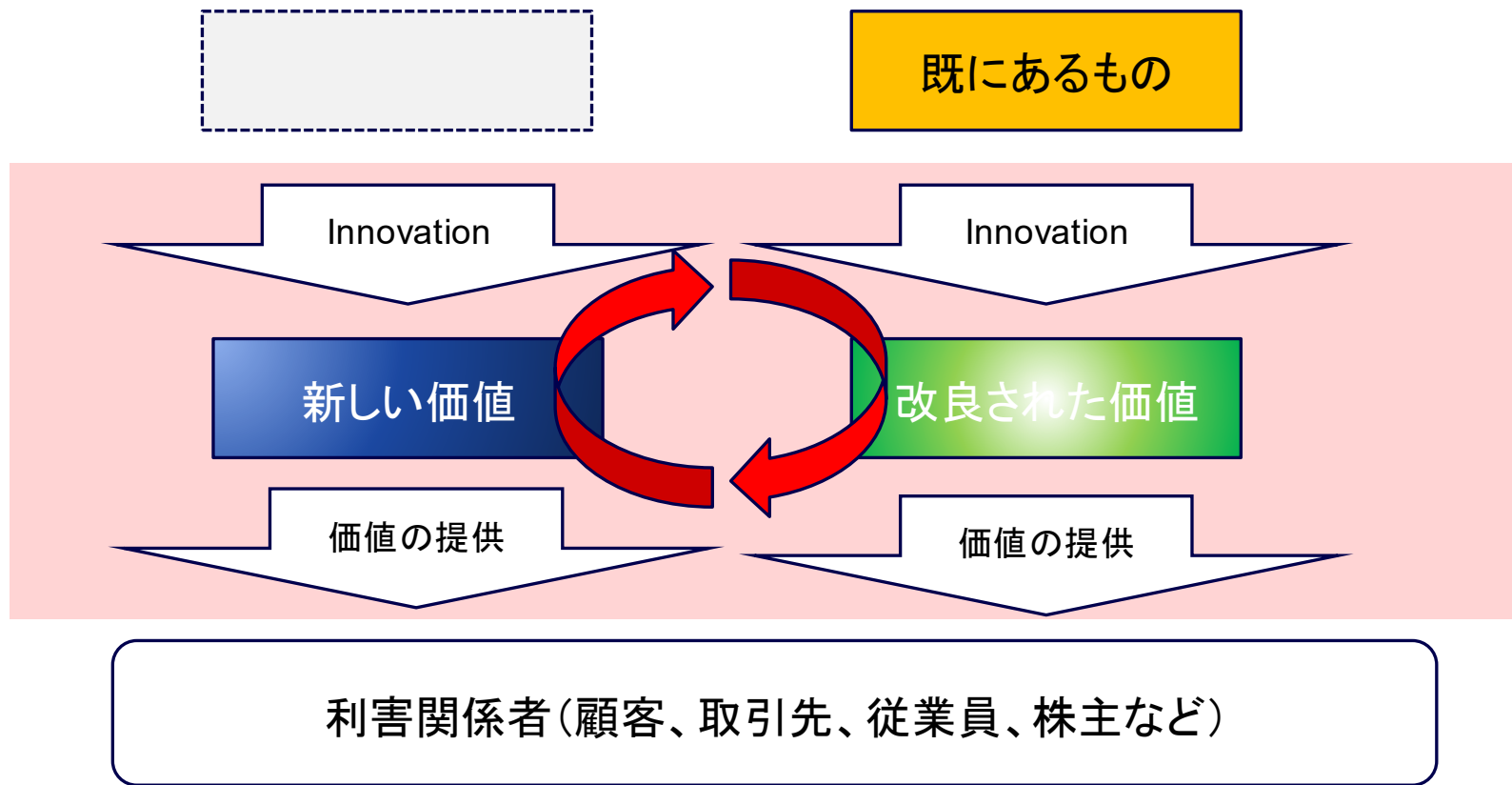
イノベーションの対象は、製品・サービスだけではない

オスロ・マニュアル（Oslo Manual）とは、
各国のイノベーション活動を比較・分析するための国際的な指針を示した文書です。
正式名称は「Guidelines for Collecting, Reporting and Using Data on Innovation（イノベーションに関するデータ収集・報告・活用のためのガイドライン）」です。

イノベーション・マネジメントシステムとは

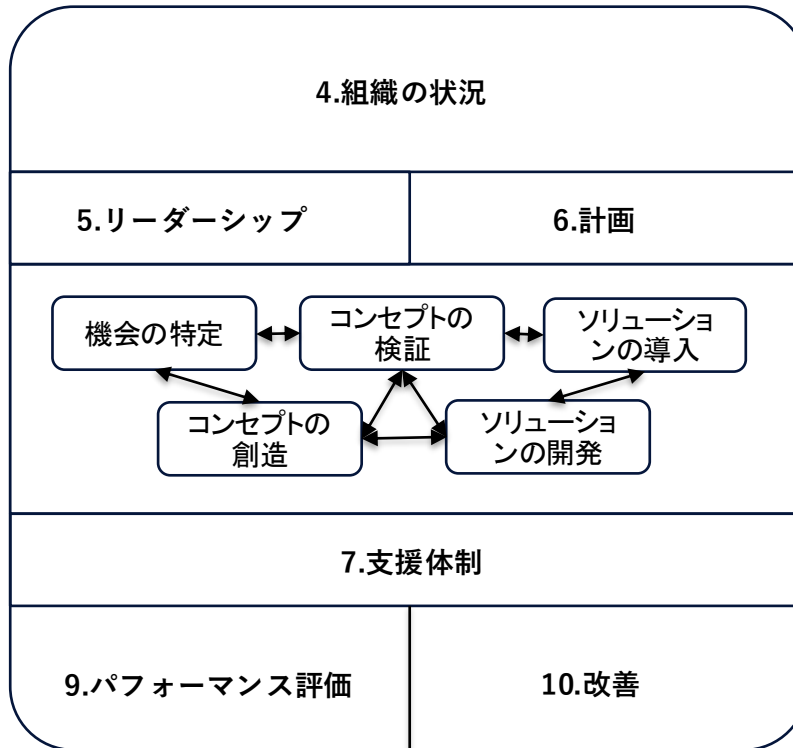
イノベーション・マネジメントシステムとは

組織が継続的かつ体系的にイノベーションを創出・実現するための仕組みです。
イノベーション活動を「偶然」ではなく「仕組み」として実現するためのマネジメント手法です。



ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）とは

不確実なビジネス環境下でも継続的な成長を促すマネジメント手法です。
イノベーション・マネジメントシステムという名称ですが、実質は価値創出を行うための設計図です。
既存事業から新規事業、組織、ビジネスモデル、サプライチェーン、研究開発、プロジェクト管理における
すべてのビジネス活動に適用可能なフレームワークと捉えてください。



= 価値創出経営の構造設計図

ISO56001体系図

発足の背景

2.1 国際的背景と発行までの経緯

ISO9000 シリーズといったこれまでのマネジメントシステムでは既存組織からイノベーションを興すことができていないという認識が欧州で高まり、2013 年に ISO にてイノベーションを興すためのマネジメントシステム ISO56000 シリーズの開発が開始されました。

本規格の技術委員会 (TC279) には、アメリカ・中国・欧州主要各国・南米主要国を含めた計 59 か国が参加しており、日本は 2015 年から参加し、経済産業省から依頼を受けた一般社団法人 Japan Innovation Network (以下 JIN) が国内審議団体を務めています。

2019 年 7 月には中心となるガイダンス規格 ISO56002 が発行され、2023 年 10 月に JISQ56002 ガイダンス規格として JIS 化されました。本 JIS 規格の策定に際しても JISA は原案作成委員として協力してきています。

2021 年 2 月よりに認証規格である ISO56001 の開発を開始。50 か国以上の第一線の専門家により 委員会原案 (Committee Draft) が提示され、各国の国内審議を経て 2024 年 9 月 10 日発行されました。

出典：<https://www.jisa.or.jp/Portals/0/resource/hr/ISO56000doc.pdf>

発行年 (最新改訂)	ISO規格	リスクに対する考え方	タイプ分類
1987年初版、 2015年改訂	ISO 9001 (品質マネジメントシステム)	不適合を防止し、是正・予防を徹底する。「リスクに基づく考え方」が導入されたが依然として回避的	リスク回避型
2005年初版、 2022年改訂	ISO/IEC 27001 (情報セキュリティマネジメントシステム)	CIA (機密性・完全性・可用性) を守るため、リスクを低減・回避。残存リスクは「受容」可能だが限定的	リスク回避型 (ただし限定的に「リスク受容」を認める)
2009年初版、 2018年改訂	ISO 31000 (リスクマネジメント)	リスクを特定・分析し、低減・回避・移転・受容を選択。枠組みは包括的だが「リスク＝脅威」の色合いが強い	リスク回避型寄り (管理フレームワーク型)
2019年	ISO 56002 (イノベーションマネジメント・ガイドライン)	不確実性を前提とし、リスクを「挑戦の機会」と捉える。失敗は学習として価値化すべき	リスク許容型
2023年	ISO/IEC 42001 (AIマネジメントシステム)	AIの不確実性を前提に、リスクを排除するのではなく説明可能性・改善プロセスで制御	リスク許容型
2024年	ISO 56001 (イノベーションマネジメントシステム要求事項)	ビジネス環境における不確実性を制度的に許容し、組織的に学習資産に転換する仕組みを必須化	リスク許容型

発足の背景

2.1 国際的背景と発行までの経緯

ISO9000 シリーズといったこれまでのマネジメントシステムでは既存組織からイノベーションを興すことができていないという認識が欧州で高まり、2013 年に ISO にてイノベーションを興すためのマネジメントシステム ISO56000 シリーズの開発が開始されました。

本規格の技術委員会 (TC279) には、アメリカ・中国・欧州主要各国・南米主要国を含めた計 59 か国が参加しており、日本は 2015 年から参加し、経済産業省から依頼を受けた一般社団法人 Japan Innovation Network (以下 JIN) が国内審議団体を務めています。

2019 年 7 月には中心となるガイダンス規格 ISO56002 が発行され、2023 年 10 月に JISQ56002 ガイダンス規格として JIS 化されました。本 JIS 規格の策定に際しても JISA は原案作成委員として協力してきています。

2021 年 2 月よりに認証規格である ISO56001 の開発を開始。50 か国以上の第一線の専門家により委員会原案 (Committee Draft) が提示され、各国の国内審議を経て 2024 年 9 月 10 日発行されました。

出典：<https://www.jisa.or.jp/Portals/0/resource/hr/ISO56000doc.pdf>

発行年 (最新改訂)	ISO規格	リスクに対する考え方	タイプ分類
1987年初版、 2015年改訂	ISO 9001 (品質マネジメントシステム)	不適合を防止し、是正・予防を徹底する。「リスクに基づく考え方」が導入されたが依然として回避的	リスク回避型
2005年初版、 2022年改訂	ISO/IEC 27001 (情報セキュリティマネジメントシステム)	CIA (機密性・完全性・可用性) を守るため、リスクを低減・回避。残存リスクは「受容」可能だが限定的	リスク回避型 (ただし限定的に「リスク受容」を認める)
2009年初版、 2018年改訂	ISO 31000 (リスクマネジメント)		チームワーク型)
2019年	ISO 56002 (イノベーションマネジメントガイドライン)	として価値化すべき	
2023年	ISO/IEC 42001 (AIマネジメントシステム)	AIの不確実性を前提に、リスクを排除するのではなく説明可能性・改善プロセスで制御	リスク許容型
2024年	ISO 56001 (イノベーションマネジメントシステム要求事項)	ビジネス環境における不確実性を制度的に許容し、組織的に学習資産に転換する仕組みを必須化	リスク許容型

マネジメントは
リスク回避型からリスク許容型へ変化

イノベーションとは

ISO56001とは

発足の経緯

日本政府の動き

日本企業の動き

ISO56001の期待効果

日本政府の動き

経済産業省では、2010年より日本の価値創造力の強化を模索し、2011年から活動を行っています。2018年に国際標準規格：ISO56002（イノベーション・マネジメントシステム：ガイダンス規格）が発表、2024年に国際標準規格：ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム：マネジメント規格）が発表されました。経済産業省からの発表には、ISO56000シリーズを引用したイノベーションへの取り組みが要求されています。

イノベーションとは

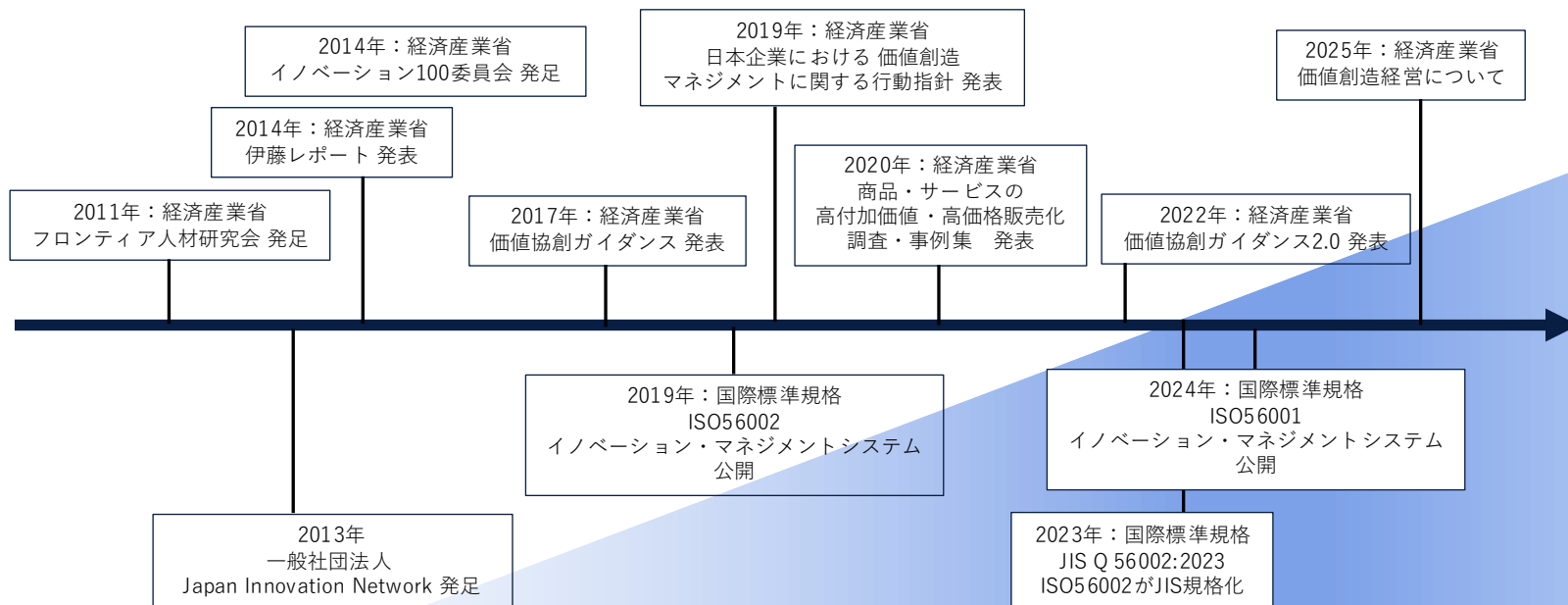
ISO56001とは

発足の経緯

日本政府の動き

日本企業の動き

ISO56001の期待効果



日本政府が、日本国内のイノベーションの重要性を提言してから**15年目**

イノベーションの仕組み
について

イノベーションとは

ISO56001とは

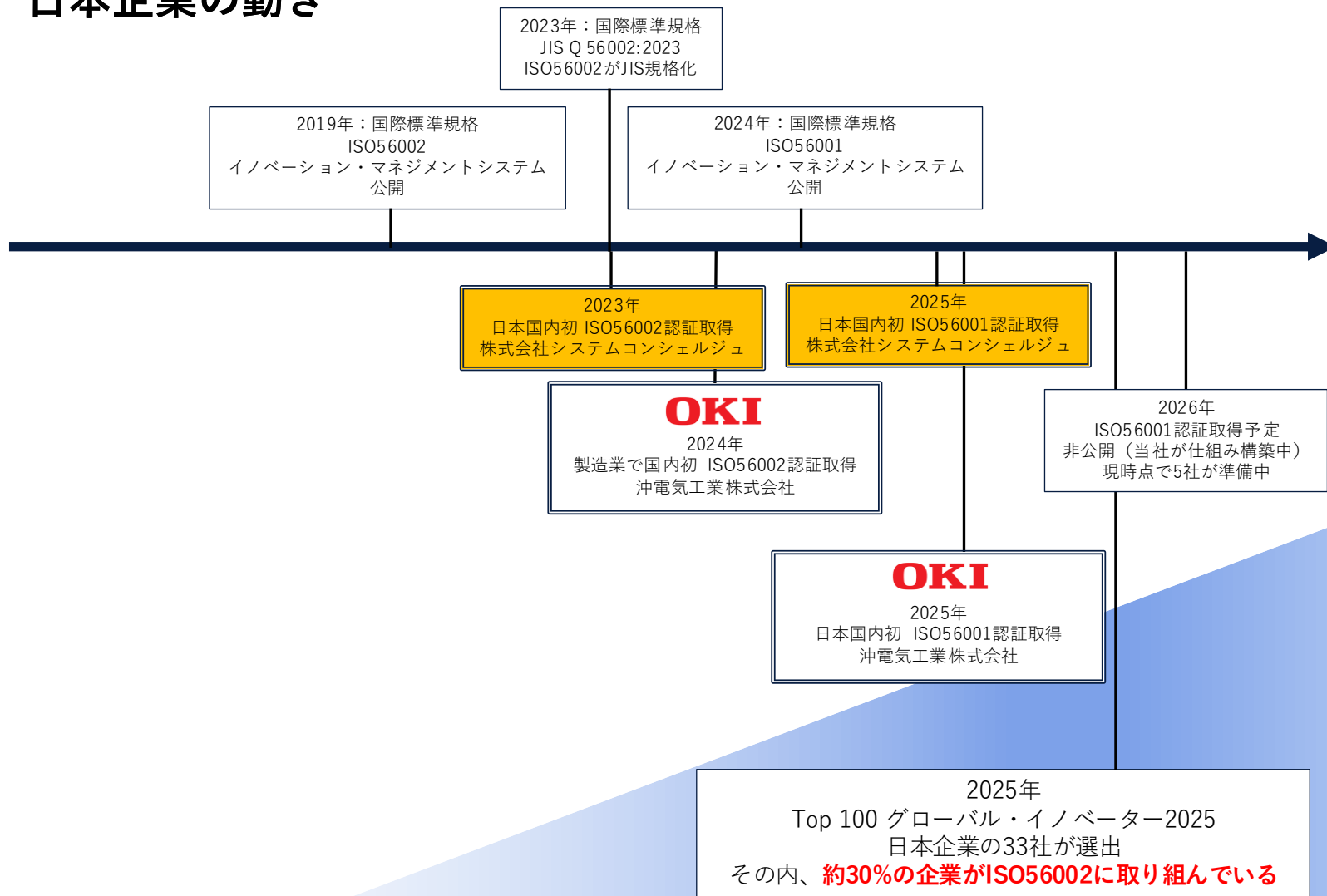
発足の経緯

日本政府の動き

日本企業の動き

ISO56001の期待効果

日本企業の動き



33社中、23社（約82%）が価値創造の要素であるISO56002、アジャイル手法、ナレッジ管理などについて、当社に相談がありました。

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の効果

ISO56001を引用した仕組み化によって、次の事項に示す効果があります。

組織の自律的 & 継続的な価値創出を促す

価値創造経営へのシフト
～ ISO56001がもたらす主な6つの効果～

オープンイノベーションによる価値協働

外部・内部資源を可視化し、価値創出に必要な経営資源を早期に確保します。
国内外のベンチャー企業情報から、従業員の経験・スキルなどを可視化するタレントマネジメントによって、成功率の高いチームビルディングを実現します。

サステナビリティ（SDGs）経営対応

経済産業省「価値協創ガイドンス 2.0」では、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）実現について説明。ガイドンスの要求事項を実現するために、国際標準規格：ISO56001の参照が有益であることが示されています。人的資本、ナレッジ蓄積、組織構造、計画など、そのすべてをISO56001では、組織に適用するための方法論を記載しています。

DXの進化と深化

デジタルトランスフォーメーション（DX）の目的は価値の創出です。そのための基盤として、ITツールによるプロセスのデジタル化・自動化、データを蓄積するデータレイクが必要です。そして最後の価値創造のプロセス化を担うのが、ISO56001となります。

利害関係者とのエンゲージメント

組織は利害関係者のニーズや期待を体系的に理解し、イノベーションの方針や戦略に反映させることができます。これにより、利害関係者との信頼関係が深まり、共創や協働を通じたイノベーションが促進されます。結果として、組織の価値創出力や競争力が高まり、持続可能な成長につながります。

時価総額の増加

組織がイノベーション能力を体系的に示すことは、国際的な信頼指標です。投資家や株主は企業の将来性や成長性に対して確信を持ちやすくなり、資金調達力の向上や評価の見直しが期待されます。結果として、企業価値が市場で適切に評価され、時価総額の増加につながる効果があります。調査会社より事実を示すグラフも公表されています。

人的資本経営への変革（人財育成と組織開発）

価値創出に必要な力量やスキルの明確化と育成が促進され、体系的な教育によって人材の能力が強化されます。組織全体で創造性や挑戦を支える文化が醸成され、学習する組織へと進化します。これにより、持続的な成長を支える基盤が構築されます。

イノベーションの仕組み
について

イノベーションとは

ISO56001とは

発足の経緯

日本政府の動き

日本企業の動き

ISO56001の期待効果

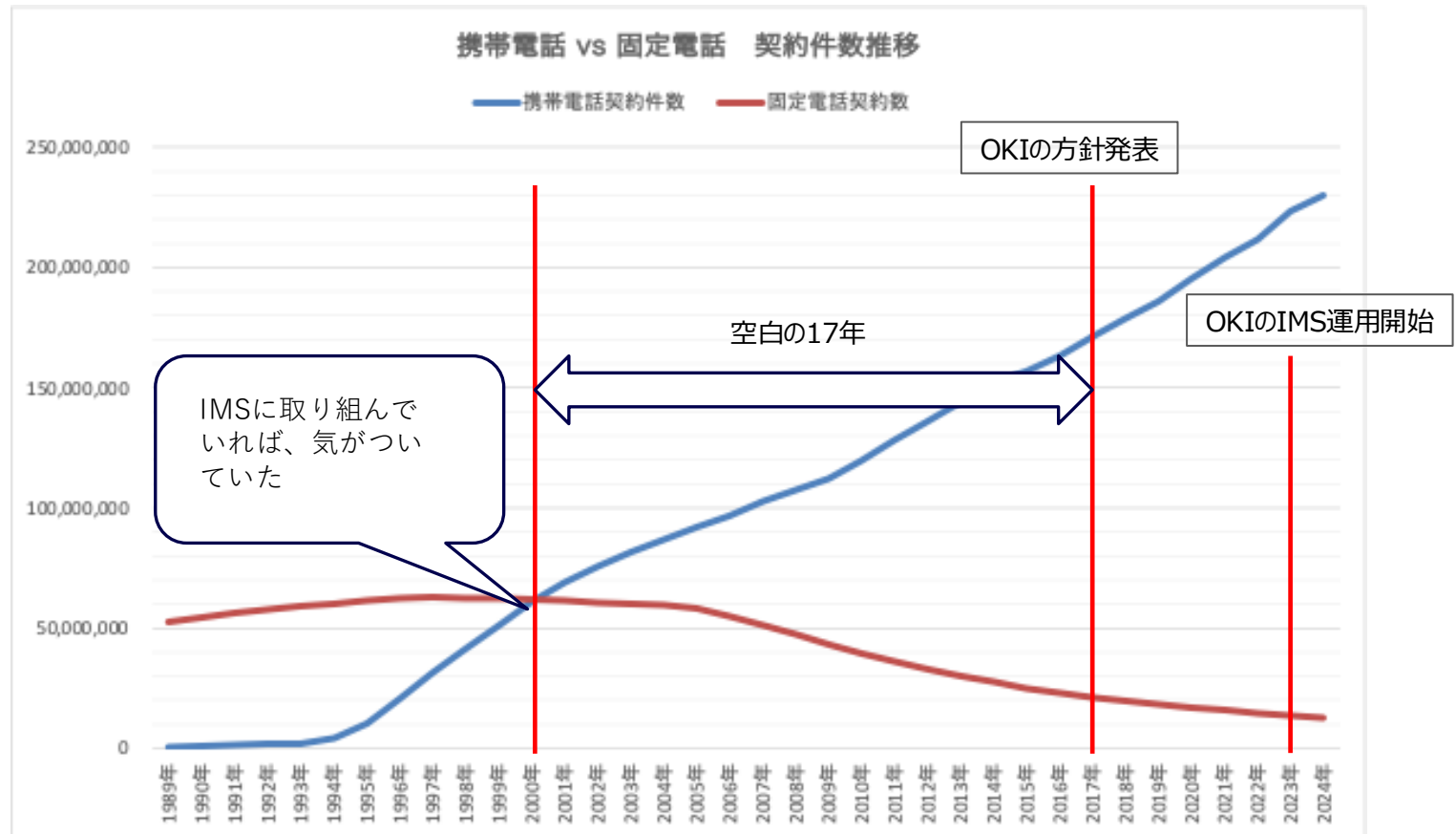
ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の効果

沖電気工業株式会社（以下、OKI）の例を簡単に説明します。

OKIの主力事業は、「固定電話」「ATM」「プリンター」であり、どの事業も将来的に拡大を見込めないものでした。

2017年に当時の鎌上社長の新しい主力事業創出の方針により、イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の取り組みが開始されました。しかし、それまでに空白の17年がありました。

IMSとは、不確実性を前提とした成長戦略と実行をマネジメントするためのフレームワークであり、ビジネス組織の俊敏性（アジリティ）と回復性（レジリエンス）を高めることができ、空白期間を極小化することが可能です。



ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の効果

イノベーションに取り組む企業は、予期せぬ致命的な環境変化でも継続的な成長を実現しています。

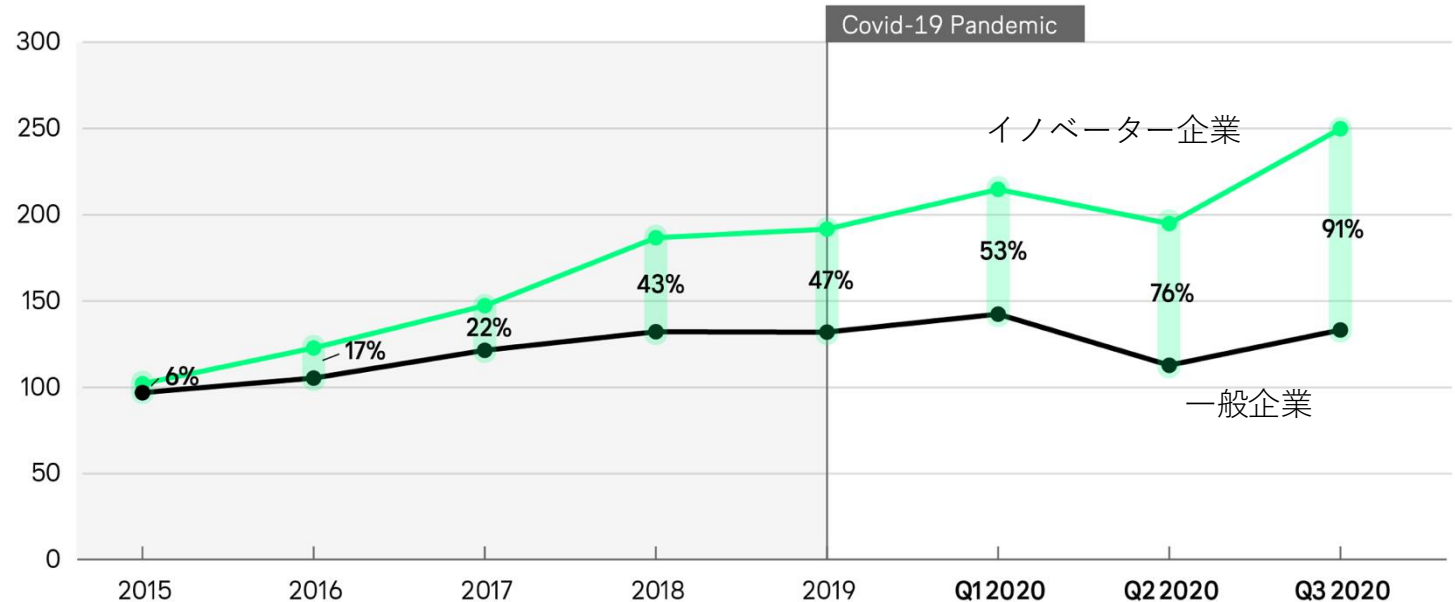
TNMT

Development of market capitalization of innovators vs. the market

Market capitalization, indexed: Jan. 01, 2015 = 100

Innovators¹

MSCI World



Source: Lufthansa Innovation Hub Analysis, TNMT.com, Boston Consulting Group, Yahoo Finance

Lufthansa
Innovation Hub

<https://tnmt.com/infographics/innovative-companies-outperform-peers-during-the-pandemic/>

ISO56001認証取得企業の最新情報

特集記事

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）認証 取得一覧（2026年1月時点）

著者：INNOVATION WORLD 編集部

25.07.30



<https://innovation.systemcon.co.jp/feature/iso56001-list/>

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

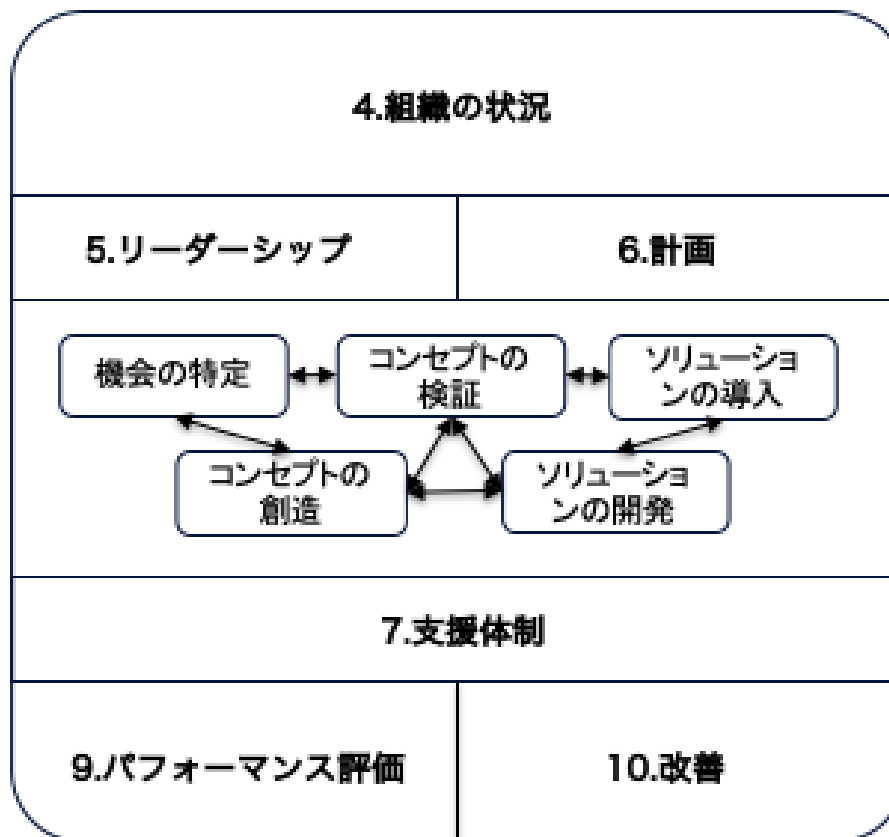
当社のサービス

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の概要図

ISO56001の要求事項

全体の概要図

- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画
- 7.支援体制
- 8.活動
- 9.パフォーマンス評価
- 10.改善



ISO56001体系図

原則は、会社組織全体ではなく、イノベーション推進部門やDX部門、マーケティング部門、研究開発部門など、部門で取得することを推奨します。

全体の概要図

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

4.組織の状況

4.1 組織及びその状況の理解

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>組織は次のことを決定するものとする。</p> <p>a.組織の目的に関連し、IMSの意図した結果の達成に影響を及ぼす外部および内部の課題</p> <p>b.気候変動に関連する課題</p> <p>c.価値創出の可能性がある機会領域</p> <p>注1：課題は、組織に対して正または負の影響を与える可能性があり、過去の経験、現在の状況、将来の予測に関連することがあります。</p> <p>注2：外部の課題は、例えば政治的、経済的、市場的、社会的、技術的、法的、規制的、規格、環境的、倫理的要因に関連しており、地域的、国内的、国際的なものが含まれます。</p> <p>注3：内部の課題は、例えば組織のビジョン、ミッション、価値観、文化、財務、人材、慣行、価値創出モデル、能力、資源、ガバナンス、実績などに関連します。</p>	<p>適用範囲で定義した事項に影響を与える情報や課題について定義します。</p> <p>要求事項を満たした情報を収集し、状況を理解するための条項となります。</p> <p>プロセスとしては、収集した情報や課題は課題管理表に記載し、関係者へ周知する。管理表への記載は、情報ソースなどの分類を行うことが望ましい。</p>

4.2 利害関係者のニーズおよび期待の理解

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>組織は次の事項を決定しなければならない。</p> <p>a) 機会が存在する分野、及びイノベーション・マネジメントシステムに関係する、現時点及び潜在的な、内部及び外部の利害関係者</p> <p>b) これらの利害関係者の現在及び予想される、関連するニーズ、期待、及び要求事項</p> <p>c) これらのニーズ、期待、及び要求事項の中で、イノベーション・マネジメントシステムを通じて取り組むもの</p> <p>注記1 ニーズ及び期待は明示的又は暗黙的な場合がある。</p> <p>注記2 関連する利害関係者は、気候変動、環境及び社会的な影響、ガバナンス及び倫理に関連する要求事項をもっている場合がある。 組織の状況を把握するために当社のすべての部門および外部ベンダーに対して協力を要請する。</p> <p>注記3 利害関係者は、例えば、利用者、顧客、パートナー、供給者、競争相手、団体、学会、規制当局、官庁、従業員、オーナー及び投資家が含まれる場合がある。</p>	<p>「4.1組織及びその状況の理解」において、利害関係者からの課題についても記載が行われているため、本項ではそのように明記することが必要となります。</p> <p>(できればあったほうが良い事項)</p> <p>利害関係者についても、定義が必要です。</p> <p>IMSに関係する内部及び外部の利害関係者の一覧表または相当する明確にするための情報が必要になります。</p> <p>QMSやIMSの審査では、利害関係者目録（もしくは一覧表）のような明確な定義及び文書の作成は求められない場合が多い。</p> <p>「3.用語の定義」において利害関係者について説明&定義されていれば問題ありません。</p>

5.リーダーシップ

5.1リーダーシップ及びコミットメント

5.1.2 価値実現の重視

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>トップマネジメントは、次の事項を確実にすることによって、価値実現に関してリーダーシップ及びコミットメントを実証しなければならない。</p> <p>a) 財務的及び非財務的いずれにおいても、持続的な価値実現の重視が、イノベーション・マネジメントシステムの全体の目的として維持されていること</p> <p>b) 不確実な状況下で価値を実現することが可能なイノベーションのプロセスを導入すること</p>	<p>この項については、ISO56002では具体的に明記されていましたが、ISO56001では要求事項が曖昧な表現になりました。</p> <p>ISO56001の要求事項を素直に捉えれば、次の内容となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - IMS計画に財務的な価値を明記して目的として維持する - IMS計画に非財務的な価値を明記して目的として維持する - 不確実な状況下においても上記の価値実現が可能なプロセスを構築し、有効性を評価する <p>つまりトップマネジメントは、売上や利益などの財務的価値のみを定義せずに、非財務的な価値も定義し、それを測定しなければなりません。例えばサステナビリティに基づく指標（例えば、CO2削減量など）や顧客満足度、顧客年齢層に関する指標など、想定した価値が正しく実現できたのかを測定する必要があります。</p> <p>結果が出てから、良い結果だけ抜き出した後付けの価値実現とならない（結果オーライ）にならないために価値の定義を明確に定めることが重要です。</p>

このISO規格では「価値実現」を中核としています

全体の概要図

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

5.リーダーシップ

5.2 イノベーション方針

5.2.1 イノベーション方針の確立

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>トップマネジメントは、次の事項を満たすように、イノベーションの方針を確立し、実施し、維持しなければならない。</p> <p>a) イノベーション活動へのコミットメントを表現する。 b) 組織の目的にとって適切である。 c) イノベーションの戦略及び目標の設定のための枠組みを提供する。 d) 適用され得る要求事項を満たすコミットメントを含む。 e) イノベーション・マネジメントシステムの継続的な改善のコミットメントを含む。</p> <p>注記 イノベーションの方針は、イノベーション・マネジメントの原則を考慮することができ、倫理、持続可能性、社会及び他のコミットメントを含めることができる。</p>	<p>この方針には、イノベーション活動の大切さを社内外に伝えるため、経営トップからの明確なメッセージを含めます。</p> <p>メッセージの中では、イノベーションに取り組む目的や背景、位置づけ、目指す姿（目標）、そしてイノベーション・マネジメントシステム（IMS）を推進する強い意志を表明することが重要です。</p> <p>イノベーションの方針は、イノベーションの戦略として具体化されます。</p> <p>イノベーションの意図、イノベーションの方針、イノベーションの戦略の関係性について以下に解説します。</p>

5.2.2 イノベーション方針の伝達

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>イノベーションの方針は次の事項を満たさなければならない。</p> <p>a) 文書化した情報として利用可能である。 b) 組織内で伝達され、理解されている。 c) 必要に応じて、利害関係者が入手可能である。</p>	<p>伝達方法は、上場企業、非上場企業、組織の規模などによって大きく異なります。</p> <p>ISO56001として具体的な伝達方法の記載はなく、組織にあわせて伝達方法を決定してよいということになります。</p> <p>非上場企業の場合、利害関係者は主に従業員であるため、イノベーションの方針を「IMS基本方針書」として文書化し、「IMSハンドブック」に転載して関係者へ配布したり、●●期方針説明書として発表を行ったりすることで伝達します。</p> <p>上場企業の場合、利害関係者に株主・投資家も含まれるため、投資家向けレポートなどにイノベーションの方針を記載し、伝達することが望ましい。</p> <p>大企業または上場企業の場合、多くは中期経営計画や投資家向けの資料に記載される場合があります。記載されるビジョンや方針を伝達によって組織内に浸透させることを考慮してください。</p>

全体の概要図

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

5.リーダーシップ

5.3 イノベーション戦略

5.3.1 イノベーション戦略の確立

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>トップマネジメントは、次の事項を満たすように、単一又は適宜複数のイノベーションの戦略を確立、実施及び維持しなければならない。</p> <p>a) イノベーション活動の目的、戦略的なイノベーションの目標及びそれらをどのように達成するかについて表明している。 b) 経営資源の配分を含む、必要な支援体制を決定及び提供する。 c) 組織の戦略的な方向性と整合している。 d) イノベーションの意図に基づき、イノベーションの方針と整合している。 e) 探索及び活用すべき機会が存在する分野を決定する。 f) 戦術的及び活動レベルのイノベーションの目標を設定し、イノベーションのポートフォリオ及びイノベーションのパフォーマンス指標を確立するための枠組みを提供する。 g) 適用される部門間、レベル間及び機能を通して一貫性をもっている。 h) 柔軟であり、適応可能性を備えている。 i) イノベーションのパフォーマンスに基づき、適切にモニタリングされ、レビュー及び更新される。</p> <p>注記 イノベーションの戦略は、組織の戦略的方向性を支援するか、又は代替的な又はより先見的な方向性を提示することにより、それにチャレンジすることができる。</p>	<p>イノベーションの戦略は、「イノベーションの方針」と整合している必要があります。</p> <p>1つのイノベーションの方針に対して、1つのイノベーションの戦略である必要はありません。 また、イノベーションの戦略は短期的なだけでなく、中長期的な場合があります。むしろ中長期的な戦略の方がじっくりくる方も多いのかもしれませんが。</p>

5.2.2 イノベーション戦略の伝達

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>イノベーションの戦略は次の事項を満たさなければならない。</p> <p>a) 文書化した情報として利用可能である。 b) 組織内で伝達され、理解され、適用されている。 c) 必要に応じて、利害関係者が入手可能である。</p>	<p>伝達方法は、上場企業、非上場企業、組織の規模などによって大きく異なります。ISO56001として具体的な伝達方法の記載はなく、組織にあわせて伝達方法を決定してよいということになります。</p>

5.リーダーシップ

5.5 役割、責任、権限

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>トップマネジメントは、組織内において、適切な役割に責任及び権限が割り当てられ、伝達され、理解されることを確実にしなければならない。トップマネジメントは、次の事項に対し、責任及び権限を割り当てなければならない。</p> <p>a) イノベーション・マネジメントシステムがこの規格の要求事項に適合していることを確実にすること b) イノベーション・マネジメントシステムのパフォーマンス及び改善の機会についてトップマネジメントに報告すること c) イノベーションのポートフォリオ、組織構造、協働、イノベーションの取組み及びイノベーションのプロセスを含む関連するマネジメントシステムの要素の管理 d) 全てのレベルでの意思決定</p> <p>注記 責任及び権限は、例えばイノベーション・マネジメントプロフェッショナルのように、専任の役割に割り当てるか、又は組織内の他の既存の役割に追加することができる。</p>	<p>原則は、IMSの運用に関する「役割、責任及び権限」のことで。※必ずしもイノベーションの戦略や計画を達成するための役割、責任及び権限ではありません。</p> <p>ISO56001の要求事項が曖昧なため、IMS運用に関する最小限の内容を明確にし、文書化することで、要求事項は満たせます。</p> <p>認証実績としては、2025年7月時点において、次の3種類の文書により5.5の要求事項は満たせる結果となっています。</p> <p>要求事項に必要な文書化されるものは次のとおりです</p> <ul style="list-style-type: none"> • IMS役割分担表 • 組織図または体制図 • IMSプロセス図

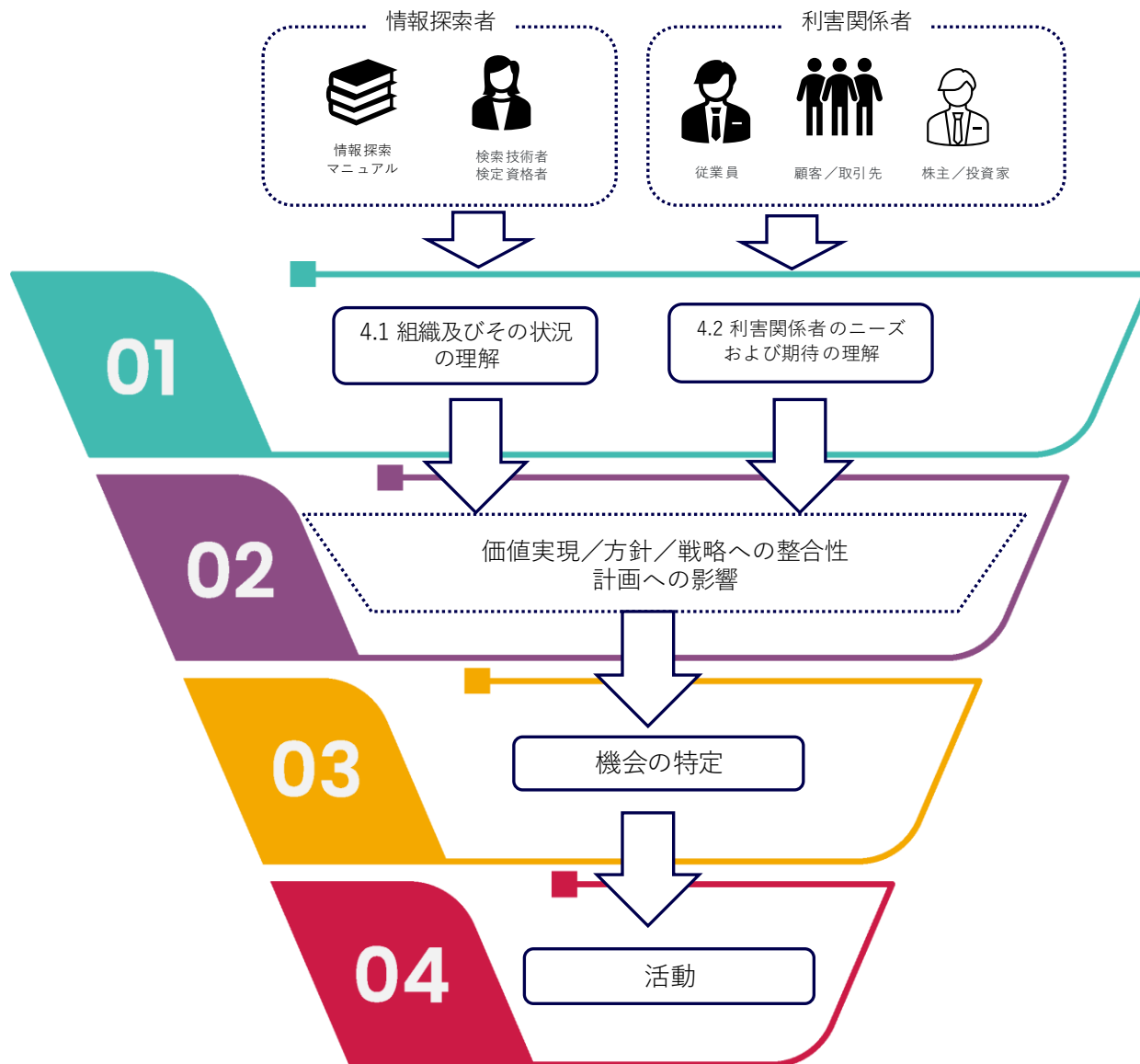
すべてのマネジメント運営には、
役割、権限、責任を明確にした体制整備は不可欠

ISO56001の要求事項

最初に決めること

- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画
- 7.支援体制
- 8.活動
- 9.パフォーマンス評価
- 10.改善

ここまでの実践方法について



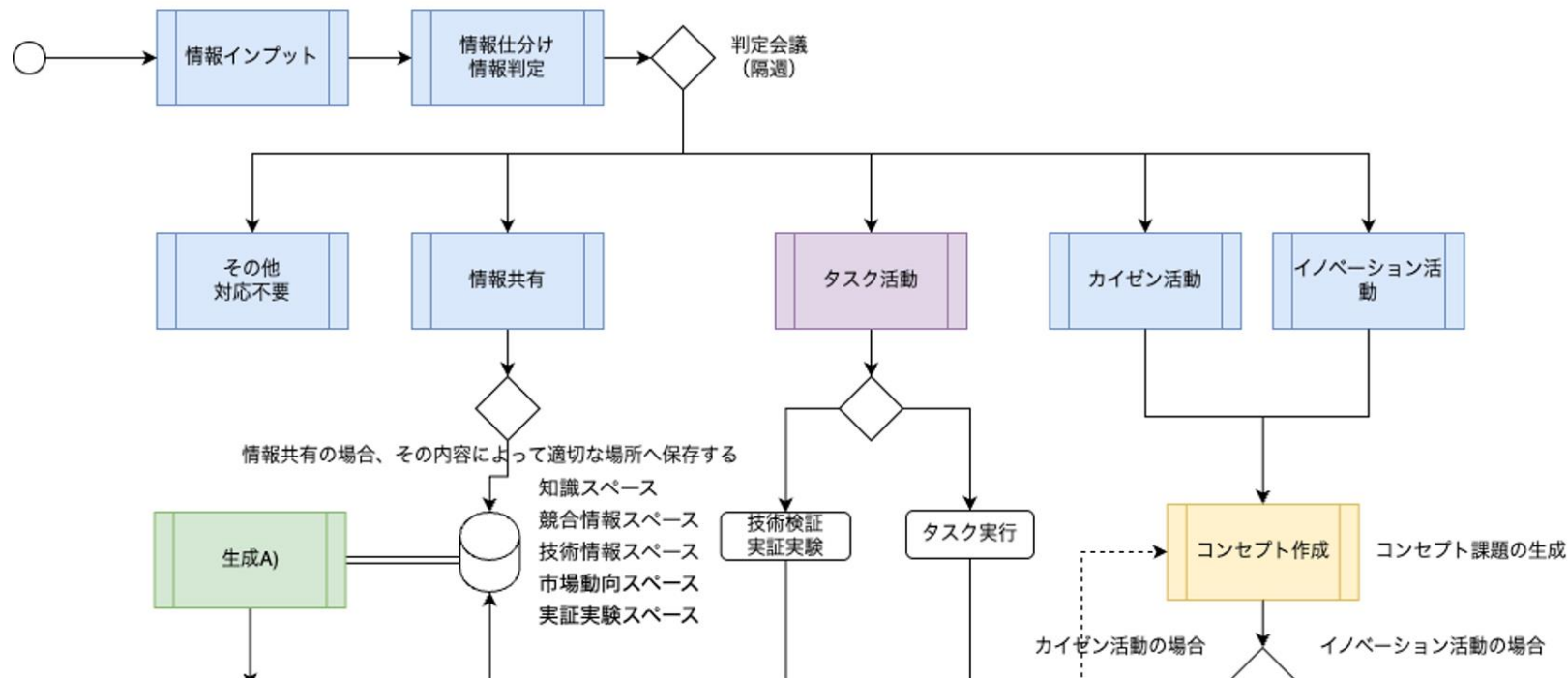
ここまでの実践方法について

ISO56001の要求事項

最初に決めること

- 4.組織の状況
- 5.リーダーシップ
- 6.計画

- 7.支援体制
- 8.活動
- 9.パフォーマンス評価
- 10.改善



ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

ここまでの実践方法について

情報源管理台帳

情報源管理台帳		作成日	作成部門			
		更新日	作成者			
組織の産業						
産業分類						
産業分類によって、対象となる情報源は変わるため、誰でもわかりやすくするために産業分類を記入します。						
情報資産管理台帳						
大分類	分類	情報源（場所）	重要度	時期	探索方法	登録日
外部	(国際的) 政治・経済・社会					
	(国内的) 政治・経済・社会					
	業界・市場					
	法律・規制					
	金融相場					
	競合					
	自然災害・気候変動					



IMS組織状況管理表

IMS-A02-1.00-D13

IMS組織状況管理表

承認 審査

関連文書：IMS-A02 IMS管理マニュアル

※ 大規模

1. 外部及び内部の状況・課題

区分	確認事項	具体的な状況・課題	4.1及び4.2	6.1.1	想定されるリスク及び機会	分類	影響度	影響時期	重要度スコア	対策判断	IMS対応計画 ※				
											対策 / 関連文書	実現可能性	戦略整合性	想定コスト	実現可能時期
a)	(国際的) 政治・経済・社会				機会	中程度 (Moderate)	3年以上に影響がでる	0.8	対策不要		普通	普通	低い	1年以内	3.2
b)	(国内的) 政治・経済・社会				リスク	低い (Low)	1年以内に影響がでる	2.0	対策検討		普通	普通	低い	1年以内	3.2
c)	業界・市場							#N/A	#N/A						#N/A

7.支援体制

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

支援体制がない場合



支援体制がある場合



リーダーシップの経営資源の確保によって支援体制が形成されます。

支援体制は、仕組みの強度であり、活動の燃料です。

これがないければ、イノベーション活動が十分にできないことを意味します。

7.支援体制

支援体制	概要
7.1.2 人材	イノベーション活動に必要な人を確保し、育成・動機づけ・多様性などを整える
7.1.3 時間	イノベーションの活動・学習のための時間を確保し、活動する
7.1.4 財務	必要な資金を決めて提供し、リスク/機会も踏まえてモニタする
7.1.5 インフラストラクチャ	物理/デジタルの基盤を用意・維持し、技術進展も定期的に評価する 必要な施設や部材などを定義する。3Dプリンターやイノベーションラボなど
7.1.6 知識	必要な知識を特定・蓄積・共有・活用し、成功/失敗から学ぶ仕組みを作る
7.1.7 知的財産	知財の監視・保護・権利関係の明確化・棚卸しなどを行う
7.1.8 ツール及び方法	イノベーション活動を支える適切なツール/方法を整備し、周知・訓練も行う。 共通手法、共通言語、共通ツールなどを定義する
7.2 力量	必要な力量を定め、教育・訓練・経験で満たし、効果も評価する。 役割・権限・責任を担い、イノベーション活動を実行するための力量を定義し、研修を行う
7.3 認識	イノベーションの意図・方針・戦略・目標や重要性を関係者が理解している状態を作る
7.4 コミュニケーション	何を・いつ・誰に・どう伝えるか・誰が担うかを決めて運用する 主に、会議体の定義を行う。チャットのチャンネルや外部コミュニケーションの方法などを定める
7.5 文書化した情報	要求される文書+有効性に必要な文書を整備し、作成・更新・管理する

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

ISO56001の要求事項

7.1.6 知識

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要な知識をマネジメントする手法を確立するとともに、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 外部又は内部、暗黙的又は明示的であろうとなかろうと、適切な知識を特定し、獲得し、分類し、保管し、共有し、活用すること</p> <p>b) 成功及び失敗を含む、過去及び現在のイノベーション活動から得られた知識を活用すること</p> <p>c) 多方面の多様な情報源から、現在及び潜在的な将来のイノベーション活動に関連した新しい分野の知識を獲得すること</p> <p>d) 機密性のレベル及び手段</p>	<p>ナレッジ管理ツールなどのITツールやサービスの導入を行えば、とても簡単にクリアできる要求事項です。</p> <p>文書として要件を満たすとすると制度設計による仕組み化が必要になります。</p> <p>a) 外部又は内部、暗黙的又は明示的であろうとなかろうと、適切な知識を特定し、獲得し、分類し、保護し、共有し、活用すること</p> <p>-----</p> <p>この要求事項は、ナレッジマネジメントそのものを指します。ISO30401レベルまでは要求しておりませんが、例としては次のようになります。</p> <p>①知識を獲得する：会議体での議事録や報告書など、ナレッジとして特定できる情報を作成する</p> <p>②分類する：獲得したナレッジを分類（フォルダ分け、属性付け、公開範囲など）</p> <p>③保護する：保管・保存を行う</p> <p>④共有する：検索などによる利用可能な状態にする</p> <p>⑤活用する：アクセス数など活用の分析ができること</p> <p>①～⑤に関しては、ナレッジ管理ツールで大幅に簡素化してくれます。</p> <p>-----</p> <p>b) 成功及び失敗を含む、過去及び現在のイノベーション活動から得られた知識を活用すること</p> <p>-----</p> <p>イノベーション・プロジェクトの報告書をa)の管理プロセスに合わせて管理する</p> <p>-----</p> <p>c) 多方面の多様な情報源から、現在及び潜在的な将来のイノベーション活動に関連した新しい分野の知識を獲得すること</p> <p>-----</p> <p>知識を獲得するための情報源やイノベーションプロセス方法を明確にして、a)の管理プロセスに合わせて管理する</p> <p>-----</p> <p>d) 機密性のレベル及び手段</p> <p>a)の管理プロセスに基づき、適切なアクセス権限を付与します。</p>

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

7.1.6 知識

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要な知識をマネジメントする手法を確立するとともに、次の事項を考慮しなければならない。	ナレッジ管理ツールなどのITツールやサービスの導入を行えば、とても簡単にクリアできる要求事項です。文書として要件を満たすとすると制度設計による仕組み化が必要になり

しくじり先生 ▾ ...

🔍 検索または質問する

🏠 ホームページ

📁 スペース アナリティクス

自分の下書き

📄 無題 未公開

目次 ... +

- 📄 2023-04 製品開発後の販売中...
- 📄 提供製品とターゲット市場が...
- 📄 AWS認定試験、英語で受けて...

しくじり先生の失敗自慢について

👤 大塚 和彦 2025年02月03日 10時35分に編集しました 📄 27回の表示

失敗を経験しない人に成長なし



1.このナレッジスペースについて

このスペースは、失敗を自慢するためのスペースです。自分やチーム、会社の失敗を面白い表現で自慢してください。

できれば、自分の思いつく範囲でよいので防止案も書いてください。防止案は特に必須ではありません。

イノベーション推進室にて案を考えてほしいと記載していただければ考えますのでよろしくお願います。

2.利用テンプレート

スペーステンプレートの「しくじり先生の失敗しちゃった（告白レポート）」を選択してください。

a)の管理プロセスに基づき、適切なアクセス権限を付与します。

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール & 方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

7.1.7 知的財産

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	知財管理台帳											
2	作成日		本文書は、知的財産管理を行うための管理台帳です。									
3	作成者											
4	更新日											
5	更新者											
6												
7	整理番号	登録日	分類	出願番号	出願日	登録番号	登録日	請求項数・区分数	出願人・権利者	名称・その他	審査請求期限	存続期間満了日
8	例	2024/4/2	商標	商願2023-96531	2023年8月30日	第6790189号	2024年3月25日	2	株式会社システムコンセルジュ	イノベーションワールド、イノベーション、ワールド、ダブリュウ		2034年3月25日
9	1											
10	2											
11	3											
12	4											
13	5											
14	6											
15	7											
16	8											
17	9											
18	10											
19	11											
20	12											
21	13											
22	14											
23	15											
	知財管理台帳 分類 +											

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

7.1.7 知的財産

ID	IP_出願番号	IP_分類	IP_出願日	タイトル	IP_存続期...	優先度	ステータス	担当者	作成日時
#4522		商標	2026-01-12	商標登録 Innovation MATURISCAN 56001		普通	作業前	大塚 和彦	2026-01-1
#3593		商標	2025-11-05	商標登録 IDEAQUEST		普通	進行中	大塚 和彦	2025-10-2
#3592	商願2023-96...	商標	2023-08-30	商標登録 イノベーションワールド, イノベ...	2034-03-25	普通	完了済み	大塚 和彦	2025-10-2

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

7.1.8 ツール&方法

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>組織は、イノベーション・マネジメントシステムの効果的な実施のために必要なツール及び方法を決定し、提供し、維持するとともに、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 様々な種類のイノベーション及びイノベーション活動を支援する適切なツール及び方法</p> <p>b) 認識の醸成及びトレーニングの提供</p> <p>注記 ツール及び方法は、例えば、バックキャストिंग、エスノグラフィ調査、シナリオプランニング、洞察、ブレインストーミング、戦略的インテリジェンス、デザイン思考、TRIZ (発明的問題解決理論)、ロードマッピング及び/又はビジネスモデル・テンプレートが含まれる場合がある。</p>	<p>ここでのツールはITツールだけを指すわけではなくフレームワークや方法論などの広義のツールと方法を指します。</p> <p>a) 様々な種類のイノベーション及びイノベーション活動を支援する適切なツール及び方法</p> <p>-----</p> <p>ツールと方法を明確にし、決定し、提供、維持する目的は、共通言語、共有手法、共有ツールによってイノベーション活動の生産性と効率を高める目的があります。</p> <p>つまり、利用ツールなどについては「7.1.5 インフラストラクチャ」にて定義するため、利用ツールの使い方（方法）を定義する。多くの場合、Excel やタスク管理ツールの汎用ツールが多いため、マニュアル作成が必要になる場合があります。専用ツールの場合は、その方法しかないためマニュアルは簡易的なものであっても機能する可能性が高い。</p> <p>-----</p>

IMSXX-XXX

株式会社 ●●●●

ツール及び方法の目録

関連文書：IMS-A02 IMS管理マニュアル

作成日		更新日	
作成部門		作成者	



本書は、「7.1.8 ツール及び方法」に該当する文書となります。

イノベーション組織は、共通言語、共有方法、共有ツールなどを決定し、教育訓練などを実施します。

番号	要求事項	方法名称	概要	教育対象	登録日	備考
1	7.2 力量	フィットジャーニー	製品・市場・ビジネスモデル・組織が段階的に“フィット（適合）”していく過程を体系的に示したフレームワークです。	○		
2	7.2 力量	デザイン思考	人間中心の視点で課題を捉え、共感・創造・検証を繰り返しながら新しい価値を生み出す思考プロセスのことです。	○		
3						

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

7.1.2 人材

7.1.3 時間

7.1.4 財務

7.1.5 インフラストラクチャ

7.1.6 知識

7.1.7 知的財産

7.1.8 ツール&方法

7.2 力量

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

7.支援体制

7.3 認識

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>組織の管理下で働く人々は、次の事項を認識していなければならない。</p> <p>a) イノベーションの意図、方針、戦略及び目標</p> <p>b) イノベーションの意味及びイノベーション活動の重要性</p> <p>c) イノベーションのパフォーマンスの向上によって得られる便益を含む、イノベーション・マネジメントシステムの有効性に関する自らの貢献</p> <p>d) イノベーション・マネジメントシステムの要求事項に適合しないことの意味</p>	<p>a) 組織が掲げるイノベーションの意図、方針、戦略、目標について（→組織として「何を目指して、どのようにイノベーションを進めていくか」）</p> <p>b) イノベーションとは何か、そしてその活動がなぜ重要なのか</p> <p>c) 自分の仕事が、イノベーションマネジメントシステムの効果的な運用にどう貢献しているか、また、イノベーションの成果が向上することによるメリット</p> <p>d) イノベーションマネジメントシステムのルールに従わなかった場合に起こる影響やリスク</p> <p>上記の認識を高めるための施策を講じる必要があります。 そのための施策を明確にした文書化を行い、認識させるための教育や認知活動を行う必要があります。 さらに、測定するために「5.4 イノベーション文化」によって測定します。</p>

イノベーション組織サーベイ『Innovation MATURISCAN 56001』によって測定される

イノベーション組織 各要素のスコア

戦略の認識	変化への認識	成長の認識	奨励の認識	組織の認識	適合の認識
スコア	スコア	スコア	スコア	スコア	スコア
(解説)	(解説)	(解説)	(解説)	(解説)	(解説)

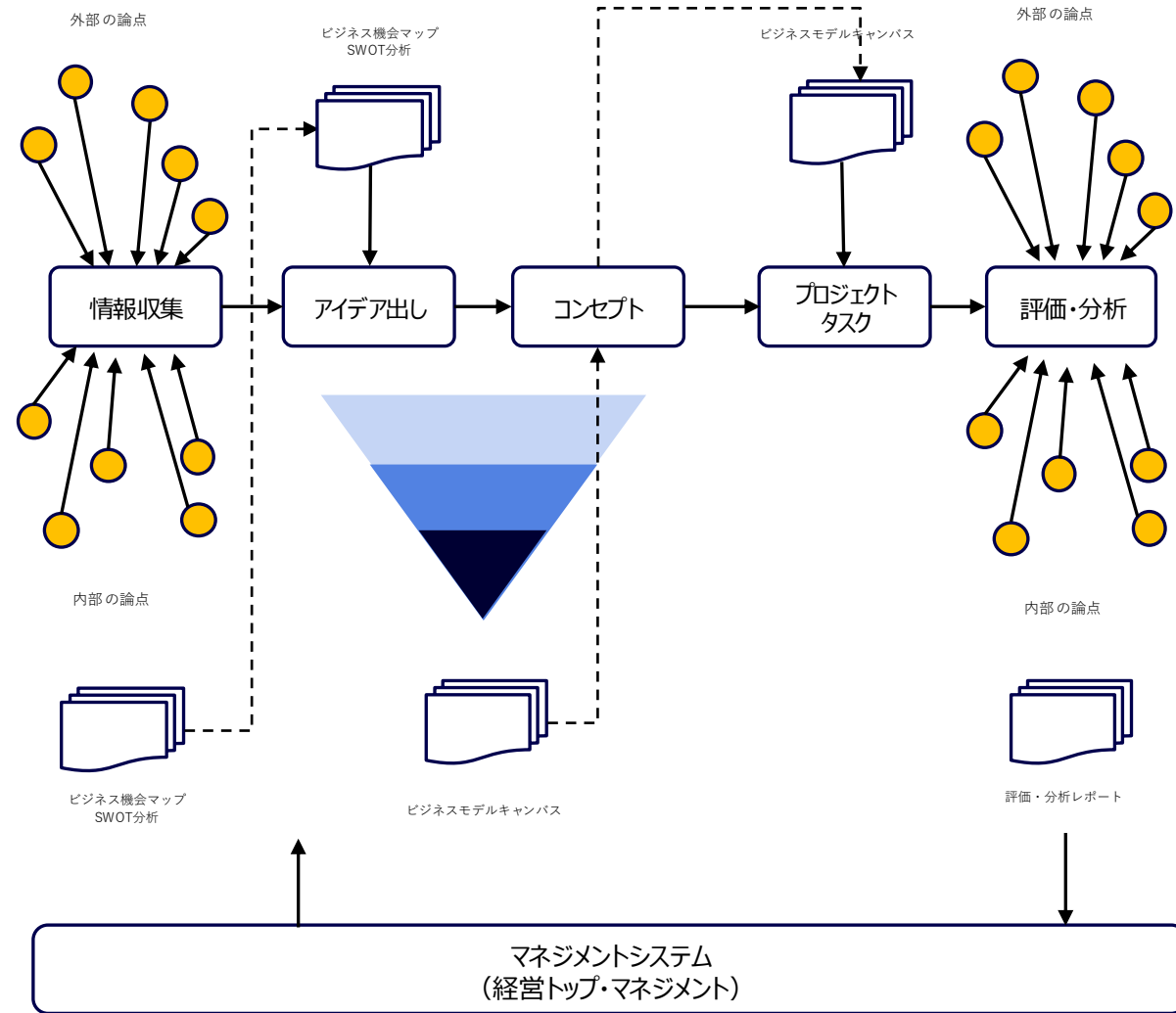


Innovation MATURISCAN 56001

戦略の認識：企業の意図、方針、戦略、目標が回答者に伝達されているか？そしてそれが回答者に認識されているか？
 変化への認識：回答者はビジネス環境は不確実性が高いと感じているか？それに適応しないリスク（何もしないリスク）を認識しているか？変化に適応できている感じているか？
 成長の認識：組織が回答者は成長のための経験、学びの機会を与えているか？回答者は成長を感じているか？回答者は以外に成長していると感じているか？
 奨励の認識：奨励はどのような時に回答者に奨励されるのか？結果：成功した時、失敗した時、過程：挑戦した時、支援（助言含む）した時など
 組織の認識：①回答者は自身が所属する組織の役割、責任が明確になっている認識があるか？、その役割、責任は果たされていると回答者は感じているか？
 ②多様性のある意見の尊重など（心理的安全性）
 適合の認識：IMSの理解とIMSに適合しているか感じるか？感じないか？

実践方法について

8.3 イノベーションのプロセス



実践方法について

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

The screenshot shows a web application interface for idea submission and campaign promotion. The browser address bar shows "NEW BUSINESS Creation Cent... / ランディングページ". The main heading is "未来を創る革新的な発想". Below the heading is a paragraph of text and a photo of a man in a suit. The text reads: "株式会社システムコンシェルジュ（以下、当社）は、お客様のお悩みを解決するコンシェルジュとしてITを活用して解決してまいりました。遂に、お客様のご満足を得られないことにつながるために特定の強みとなる独自の事業展開を進めていきます。全社一丸となって未来を創り上げていきましょう。代表取締役社長 飯田 健夫". Below the text are two buttons: "アイデアを閲覧する" and "アイデアを送信". Below this is a section titled "お気に入りのキャンペーン" with three cards. The first card has a placeholder image and the text "情報収集から機会と脅威を素早く判断できる仕組み" and "「機会の特定」前にやるべきことを自動化させる". The second card has an image of a port and the text "プロセスの改善". The third card has an image of people around a table and the text "カイゼン要望受付" and "ヘルプデスク業務の効率化・サービス向上・アイデアなどを速慮なく投稿してください". Each card has an "アイデアを見る" button.

NEW BUSINESS Creation Cent... / ランディングページ

検索

提出する

未来を創る革新的な発想

株式会社システムコンシェルジュ（以下、当社）は、お客様のお悩みを解決するコンシェルジュとしてITを活用して解決してまいりました。遂に、お客様のご満足を得られないことにつながるために特定の強みとなる独自の事業展開を進めていきます。全社一丸となって未来を創り上げていきましょう。

代表取締役社長 飯田 健夫

アイデアを閲覧する

アイデアを送信

お気に入りのキャンペーン

情報収集から機会と脅威を素早く判断できる仕組み

「機会の特定」前にやるべきことを自動化させる

アイデアを見る

プロセスの改善

アイデアを見る

カイゼン要望受付

ヘルプデスク業務の効率化・サービス向上・アイデアなどを速慮なく投稿してください

アイデアを見る

実践方法について

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

カイゼン要望受付 5人のチャンネル登録者 > 登録を解除する

アイデア キャンペーン概要 チーム ワークフロー

新しいアイデアを提出する +

カイゼン要望受付
ヘルプデスク業務の効率化・サービス向上・アイデアなどを遠慮なく投稿してください

目的
カスタマーサクセスは、お客様のITサービス利用の成功を支援するためのサービスを提供を行っています。お客様のお悩み、お困りことを素早く解決することが私たちの仕事です。そのためにカスタマーサクセス部門の業務の生産性向上やサービス向上となるカイゼン要望を受け付けています。

キャンペーンについて
4 投稿されたアイデア
12 アイデアビュー
0 コメント
0 投票数

キャンペーン スポンサー
iida 飯田 @iida
和彦 大塚 @kohtsuka
キャンペーンチームを見る

ワークフロー

要望受付 カイゼン要望を受付して、メンバー内に投票しましょう。カイゼン要望の受付は、本人、代理登録、複数人からの共同登録が可能です。ラベル「非公開」を追加すると非公開として登録されます。ラベル「VIP」は、部長以上の役職者が注目するカイゼン要望として扱われます。

カイゼン要望の評価 メンバーから提出されたカイゼン要望を評価します。評価は非公開および匿名で評価されます。評価結果の平均スコアは全員に公開されます。

結果 (検討) 評価の結果、検討対象となったものが保存されます。このステージに入ったものは表示可能になります。

結果 (保留) 評価の結果でスコアが低いものが「保留」されます。株式会社システムコンシェルジュでは、顧客、従業員、取引先へのサービスの向上に効果があるものが高スコアとなります。このステージに保存された要望は表示されます。

情報収集から機会と早く判断できる仕組み
「機会の特定」前にやるべきことを
アイデアを見る

10.改善

10.1 継続的改善

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
組織は、イノベーション・マネジメントシステムの適切性、妥当性、有効性及び効率性を継続的に改善しなければならない。	ISO56002では「逸脱」という文言が存在しましたが、ISO56001より削除されています。 是正処置に対する改善については、別紙「是正処置要求・報告書」を参考にしてください。

10.2 不適合及び是正処置

ISO56001 – 要求事項	株式会社システムコンシェルジュのコメント
<p>不適合が発生した場合、組織は次の事項を実施しなければならない。</p> <p>a) 不適合に対処し、該当する場合には、次の事項を実施する。</p> <p>1) その不適合を管理し、是正するための処置をとる。</p> <p>2) その不適合によって起こった結果に対処する。</p> <p>b) その不適合が再発又は別のところで発生しないようにするため、次の事項により、不適合の原因を取り除く 処置をとる必要性を評価する。</p> <p>1) その不適合をレビューし、分析すること</p> <p>2) その不適合の原因を特定すること</p> <p>3) 類似の不適合の有無、又はそれらが発生する可能性を明確にすること</p> <p>c) あらゆる必要な処置を実施する。</p> <p>d) 実施された全ての是正処置の有効性をレビューする。</p> <p>e) 必要に応じ、イノベーション・マネジメントシステムに変更を加える。</p> <p>是正処置は、検出された不適合のもつ影響に応じたものでなければならない。</p> <p>次に示す事項の証拠として、文書化した情報が利用可能でなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 不適合の性質及びその後それに対してとったあらゆる処置 - 全ての是正処置の結果 	ISO56001からは是正処置を内部監査員がモニタリングし、結果を確認する要求事項が削除されました。 そのため不適合、指摘事項に対する是正処置のモニタリングとレビューと結果、分析については、その役割や責任を定める必要があります。

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

10.改善

ISO56001の要求事項

最初に決めること

4.組織の状況

5.リーダーシップ

6.計画

7.支援体制

8.活動

9.パフォーマンス評価

10.改善

ONES.com プロジェクト管理 | プロジェクト: ISO変更管理プロジェクト | 概要 改善一覧 タスク 目次 メンバー その他ナビ

検索 検索 検索
マイワーク

ISO変更管理プロジェクト (進行中) フルスクリーン 再生 概要を編集

IMS改善を作成 IMS改善をインポート

プロジェクト管理 | プロジェクト: ISO変更管理プロジェクト | 概要 改善一覧 タスク 目次 メンバー その他ナビ

ISO56001変更管... ISO27001変更管... Pマーク変更管理...

すべてのIMS改善 作業前 進行中 完了 ビュー管理

+ IMS改善 新規作成 合計 28 個 保存 別名で保存 復元 その他 階層 設定済み ソート 更新日時 グループ化 課題タイプ フィルター

課題タイプ	ID	IMS 管...	IMS 指...	IMS 変...	IMS 指...	タイトル
IMS改善 (28)						
IMS改善	#3583	RQ202510-0...	イノベーション...	規定関連	改善の機会	知的財産管理規定について
IMS改善	#1878	2604103-20...	外部審査委員	プロセス	改善の機会	実証実験に関するタスク活動などを含む「タスク
IMS改善	#3515	2656283-20...	外部審査委員	マニュアル関連	改善の機会	アンケート実施時期についても明確にする (#187
IMS改善	#1875	2604103-20...	外部審査委員	マニュアル関連	改善の機会	従業員アンケートに関する運用について
IMS改善	#1877	2604103-20...	外部審査委員	規定関連	改善の機会	内部監査プロセスの頻度の記載
IMS改善	#2453	2656283-20...	外部審査委員	マニュアル関連	不適合	価値の測定方法の要件を反映させる
IMS改善	#3514	2656283-20...	外部審査委員	プロセス	改善の機会	リスクレベルに応じてアクションプランが取られ?
IMS改善	#3516	2656283-20...	外部審査委員	プロセス	改善の機会	コンセプト検証を経てソリューション開発に移行?
IMS改善	#1880	2604103-20...	外部審査委員	その他	改善の機会	ソリューション導入(リリース以降)の効果測定
IMS改善	#3502		イノベーション...	規定関連	その他	マネジメントレビュー規定の廃止
IMS改善	#3019		イノベーション...	その他	情報項目	情報インプットの項目変更
IMS改善	#3485		イノベーション...	マニュアル関連	適用範囲の変更	適用範囲の変更
IMS改善	#3484		イノベーション...	計画・方針関連	IMS計画変更	会議体の変更による計画の変更
IMS改善	#3482		イノベーション...	その他	情報項目	情報ソースの変更

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて

ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

利用ツール

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト&タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



上記の3つのツールをベースにすれば、テンプレートを提供でき、簡単にISO56001の仕組みを構築することが可能です。

但し、株式会社システムコンシェルジュでは、ツール限定は行わずに、Microsoft 365、Notion、Atlassianなど、あらゆるツールの利用経験から、どのようなツールであってもISO56001の仕組みを構築することが可能です。

但し、ツール実装費用が別途発生します。

利用ツール

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト&タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



ISO56001 (イノベーション・マネジメントシステム) の要求事項を適用しようとする、組織横断して取り組みをしなければならない。

そのような課題に対して、単独部門でもISO56001に取り組めるようにするためのイノベーション管理ツールです。

単独部門でもイノベーション・マネジメントシステムに取り組める

主要機能

クエスト管理

目的・テーマを設定したクエストを作成。目的・テーマだけでなく報酬、難易度(クエストレベル)、期間、クエストオーナーなども設定して公開

パーティ管理

クエストに誘われパーティメンバーを管理。クエストの内容に応じてパーティを組んだり、自由に参加したり、仲間と一緒にクエストにアイデアを出して欲しい。

アイデア管理

クエストの目的・テーマに対してアイデアを登録します。アイデアの評価によって報酬と経験値、称号ランクなどがカウントアップされます。アイデアに対して、「いいね」や「投票」ができます。

世界管理 (システム管理)

世界管理 (システム管理) は、この世界に所属する人々 (メンバー) を管理します。アカウント管理、パスワードリセット、称号ポリシー、通貨ポリシーなどの設定を行います

プロフィール管理

メンバーのプロフィールを設定します。アバター、メンバー名、パスワード、メッセージ、職業、称号ランク、経験値などが表示され、ステータス更新によってランクアップします。

レポート

世界 (システム) 内のクエストの活動状況やアイデア状況などを「知の書 (イノベーションの種)」としてレポート出力します。

利用ツール

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト&タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



生成AIと連携したイノベーション管理ツール

IDEASCALE



オバマ米国大統領の
イノベーション政策に
よって誕生



- ・ カリフォルニア
- ・ ワシントンDC
- ・ バンガロール
- ・ カナダ
- ・ ドイツ
- ・ シンガポール
- ・ 日本

ユーザー無制限
ランディングページ
アイデアへの称賛
ワークフロー
アイデア評価
ビジネスモデルキャンパス (BMC) などのテンプレート
生成AIによるアイデア分析レポート
ファンド (予算配分)
リアルタイム言語翻訳 (37ヶ国語)
GDPR / FedRAMP対応



Customers Choice 2024

Ideascale, Gartner Peer Insightsにおいて、Customer Choice Awards 2024を受賞しました。

Gartner Peer Insightsとは、エンドユーザーがソフトウェアやITサービスに関するレビューや評価を行うためのオンライン・プラットフォームです。Gartner (ガーントナー) 社の提携しており、実際のユーザーからのフィードバックをもとに製品やサービスの評価を導きます。

Customer Choice Awardsとは、Gartner Peer Insightsでユーザーからの評価を受けたい製品やサービスに影響する要となります。

組織を横断してイノベーション・マネジメントシステムに取り組める

利用ツール

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト&タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



導入実績



利用ツール

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



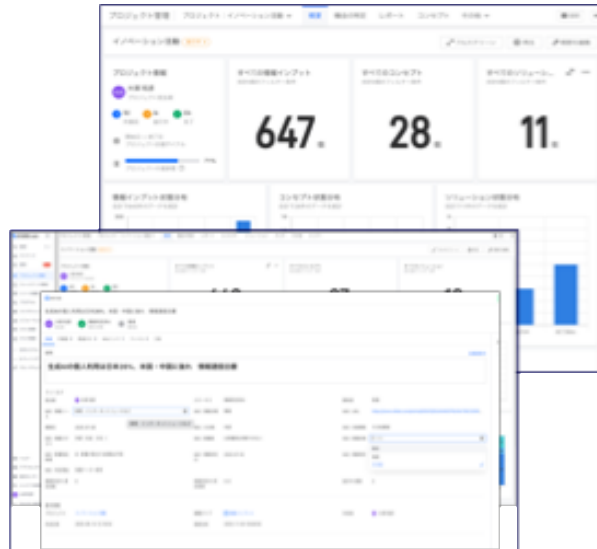
国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト&タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



Atlassian製品互換のプロジェクト管理/ナレッジ管理ツール



Atlassian製品互換のONES製品は、30ユーザーまで無料利用できるSaaSサービスです。
※オンプレミスは50ユーザーから利用可(有償)

この製品をベースに株式会社システムコンシェルジュのISO56001認証取得の仕組み(テンプレート)をそのまま提供します。

コンサルティングサービスを通じて、お客様向けにカスタマイズします。

中小企業または小規模向けに対するイノベーション・マネジメントシステム

利用ツール

プレスリリース 2024年9月18日

ONES製品を活用した『情報判断の仕組み』の設定手順書を公開

2024年09月18日

報道関係者各位

株式会社システムコンシェルジュ

ONES製品を活用した『情報判断の仕組み』の設定手順書を公開

株式会社システムコンシェルジュ(東京都千代田区、代表取締役社長：飯田 健夫)は、国内初のISO56002(イノベーション・マネジメントシステム)認証取得企業です。このたびISO56002(イノベーション・マネジメントシステム)の認証取得の際に活用した「情報判断の仕組み」を設定するための手順書を無料公開いたします。この仕組みはISO9001やISO27001など、ISOの共通事項となる「組織の状況」に活用できるためISO認証取得企業のISO運用を支援するものと考えております。

<https://systemcon.co.jp/resources/articles/press/press-20240918/>

上記の手順書で設定すれば

これができるようになります。



利用ツール

The screenshot displays a web application interface for document management. On the left, a sidebar shows a navigation menu with a search bar and a list of documents. The main content area is divided into two columns. The left column shows a document titled 'イントロダクション' (Introduction) with a table of contents. The right column shows a document titled 'しくじり先生の失敗自慢について' (About Mr. Shikujiri's Failure Bragging) with a main heading '失敗を経験しない人に成長なし' (No growth for those who don't experience failure) and two sections of text. A yellow arrow points from the text 'これができるようになります。' to the 'しくじり先生' document in the sidebar.

ナレッジベース管理 > スペース > 外部公開

(外部公開) ISO56001ドキュメント関連

検索または質問する

ホームページ

スペース アナリティクス

目次

- 前書き
- イントロダクション**
- 第1章 イノベーション・マネジメントシステム
- 第4章 組織の状況
- 第5章 リーダーシップ
- 第6章 計画
- 第7章 支援体制
- 第8章 活動
- 第9章 パフォーマンス評価
- 第10章 改善
- 各種文書類
 - 文書レベル1 (A) 方針、マニュアル
 - IMSXX-XXX | IMS基本方針定義書
 - 文書レベル2 (B) 規定類
 - IMSXX-XXX | 是正処置管理規定
 - IMSXX-XXX | 知的財産管理規定
 - 文書レベル3 (C) 手順書、定義書、プロセス類
 - IMSXX-XXX | IMSシステム系図 (全体)
 - 文書レベル4 (D) 記録書類
 - IMSXX-XXX | IMS活動

ISO56001関連ドキュメント | ホームページ > イントロダクション

編集 共有 印刷 共有 その他

アウトライン 注釈 Copilot

今日

このページはなんですか？

回答が生成されました。

このページは、ISO56001に関するイントロダクション (導入) をまとめたドキュメントです。ISO56001は、組織がイノベーション管理システム (IMS) を導入し、継続的なイノベーション活動を体系的かつ効果的に実施するための国際規格です。

イントロダクション

大塚 和彦 2025年09月12日 18時02分に編集しました 17回の表示

イントロダクション

0.1 一般

組織のイノベーション能力は、その存続、競争力、回復力、再生、そして社会の持続可能な発展にとって重要な要素であると認識されています。

組織がイノベーション管理システムを導入する目的は、イノベーションのパフォーマンスを向上させ、変化に適応する能力を高めることです。システムアプローチは、不確実性のレベルを低下させ、イノベーションの取

しくじり先生

検索または質問する

ホームページ

スペース アナリティクス

自分の下書き

無題 未公開

目次

- 2023-04 製品開発後の販売中...
- 提供製品とターゲット市場が...
- AWS認定試験、英語で受けて...

しくじり先生の失敗自慢について

大塚 和彦 2025年02月03日 10時35分に編集しました 27回の表示

失敗を経験しない人に成長なし

1.このナレッジスペースについて

このスペースは、失敗を自慢するためのスペースです。自分やチーム、会社の失敗を面白い表現で自慢してください。

できれば、自分の思いつく範囲でよいので防止案も書いてください。防止案は特に必須ではありません。

イノベーション推進室にて案を考えてほしいと記載していただければ考えますのでよろしくお願いします。

2.利用テンプレート

スペーステンプレートの「しくじり先生の失敗しちゃった (告白レポート)」を選択してください。

これができるようになります。

会社紹介

自己紹介

本セミナーの目的

イノベーションの仕組みについて




ISO56001の要求事項と実践

利用ツール

当社のサービス

イノベーション管理ツール

製品・サービスについて

<p>ゲーム感覚でアイデア管理 (オンプレミス版のみ)</p> 	<p>国際的なイノベーション管理ツール (SaaS版のみ)</p> 	<p>無料で30ユーザーまで利用可能 プロジェクト & タスク管理ツール (オンプレミス版 / SaaS版)</p> 
---	---	--

イノベーション管理ツール

イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

上記の3つのツールをベースにすれば、テンプレートを提供でき、簡単にISO56001の仕組みを構築することが可能です。

但し、株式会社システムコンシェルジュでは、ツール限定は行わずに、Microsoft 365、Notion、Atlassianなど、あらゆるツールの利用経験から、どのようなツールであってもISO56001の仕組みを構築することが可能です。

但し、ツール実装費用が別途発生します。

イノベーション管理ツール

製品・サービスについて

イノベーション管理ツール

イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト & タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



ISO56001 (イノベーション・マネジメントシステム) の要求事項を適用しようとする、組織横断して取り組みをしなければならない。

そのような課題に対して、単独部門でもISO56001に取り組めるようにするためのイノベーション管理ツールです。

単独部門でもイノベーション・マネジメントシステムに取り組める

主要機能

クエスト管理

目的・テーマを設定したクエストを作成。目的・テーマだけでなく報酬、難易度(クエストレベル)、期限、クエストオーナーなども設定して公開

パーティ管理

クエストに挑むパーティメンバーを管理。クエストの内容に応じてパーティを組んだり、自由に参加したり、仲間と一緒にクエストにアイデアを出してください。

アイデア管理

クエストの目的・テーマに対してアイデアを登録します。アイデアの評価によって報酬と経験値、称号ランクなどがカウントアップされます。アイデアに対して、「いいね」や「投票」ができます。

世界管理 (システム管理)

世界管理(システム管理)は、この世界に所属する人々(メンバー)を管理します。アカウント管理、パスワードポリシー、称号ポリシー、通貨ポリシーなどの設定を行います

プロフィール管理

メンバーのプロフィールを設定します。アバター、メンバー名、パスワード、メッセージ、職業、称号ランク、経験値などが表示され、ステータス更新によってランクアップします。

レポート

世界(システム)内のクエストの活動状況やアイデア状況などを「知の書(イノベーションの種)」としてレポート出力します。

イノベーション管理ツール

製品・サービスについて

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト & タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



イノベーション管理ツール

イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

生成AIと連携したイノベーション管理ツール

IDEASCALE



オバマ米国大統領の
イノベーション政策に
よって誕生



- ・ カリフォルニア
- ・ ワシントンDC
- ・ バングラディッシュ
- ・ カナダ
- ・ ドイツ
- ・ シンガポール
- ・ 日本

ユーザー無制限
ランディングページ
アイデアへの称賛
ワークフロー
アイデア評価
ビジネスモデルキャンバス (BMC) などのテンプレート
生成AIによるアイデア分析レポート
ファンド (予算配分)
リアルタイム言語翻訳 (37ヶ国語)
GDPR / FedRAMP対応



Customers Choice 2024

IdeaScaleは、Gartner Peer Insightsにおいて、Customer Choice Awards 2024を受賞しました。

Gartner Peer Insightsとは、エンドユーザーがソフトウェアやITサービスに関するレビューや評価を行うためのオンライン・プラットフォームです。Gartner (ガートナー) 社が提供しており、実際のユーザーからのフィードバックをもとに製品やサービスの評価を確認できます。

Customer Choice Awardsとは、Gartner Peer Insightsでユーザーから特に高評価を受けたIT製品やサービスを表彰する賞となります。

組織を横断してイノベーション・マネジメントシステムに取り組める

イノベーション管理ツール

製品・サービスについて

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト & タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)



イノベーション管理ツール

イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

導入実績



イノベーション管理ツール

製品・サービスについて

ゲーム感覚でアイデア管理
(オンプレミス版のみ)



国際的なイノベーション管理ツール
(SaaS版のみ)

IDEASCALE

無料で30ユーザーまで利用可能
プロジェクト & タスク管理ツール
(オンプレミス版 / SaaS版)

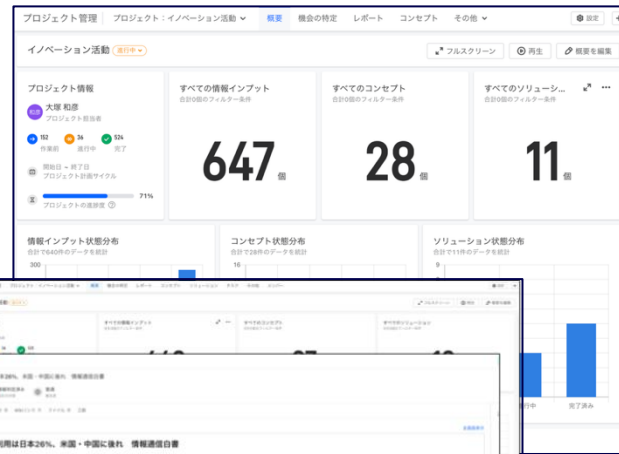


イノベーション管理ツール

イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

Atlassian製品互換のプロジェクト管理/ナレッジ管理ツール



Atlassian製品互換のONES製品は、30ユーザーまで無料利用できるSaaSサービスです。
※オンプレミスは50ユーザーから利用可（有償）

この製品をベースに株式会社システムコンシェルジュのISO56001認証取得の仕組み（テンプレート）をそのまま提供します。

コンサルティングサービスを通じて、お客様向けにカスタマイズします。

中小企業または小規模向けに対するイノベーション・マネジメントシステム

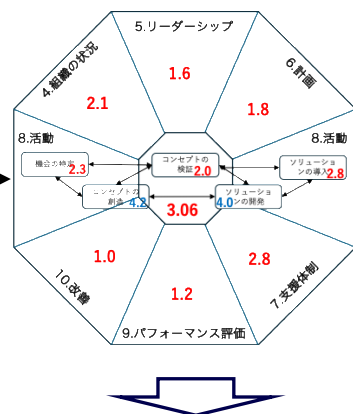
イノベーション関連コンサルティング

製品・サービスについて

イノベーション管理ツール

イノベーション関連コンサルティング

教育サービス



IMS適合アセスメントサービス

ISO56001の要求事項に対する組織機能の有無チェックを実施します。5段階評価を行い、何ができていて、何ができていないか確認します。イノベーションを生み出す機能の有無を測定します。経営システムの状態を診断する位置付けです。

参考価格：150万円（税別）～

- IMS導入支援サービス：当社が主体となってIMS導入を行います。 個別見積
- IMSコーチングサービス：お客さまが主体となってIMS導入を行います。 月額45万円（税別）～
- IMS運用支援サービス：当社が主体となってIMS運営を行います。 個別見積
- IMSよろず相談サービス：お客さまが主体となってIMS運営を行います。 月額20万円（税別）～



Innovation MATURISCAN 56001

イノベーション組織サーベイ

ISO56001の要求事項に対する組織文化チェックを実施します。IMSが組織として正常に機能しているかを測定します。イノベーションを生み出す組織状態を測定します。組織状態を診断する位置付けです。

参考価格：50万円（税別）／50名（※1万円/ユーザー）

イノベーション関連 教育サービス

製品・サービスについて

イノベーション管理ツール

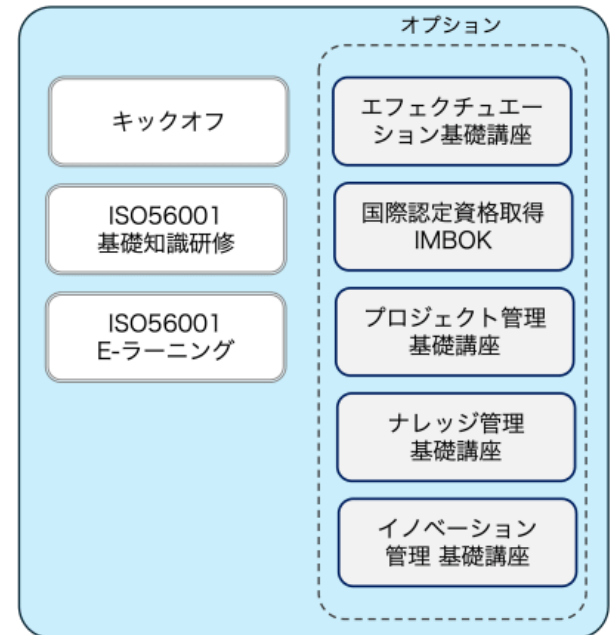
イノベーション関連
コンサルティング

教育サービス

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の要求事項である「力量」などに該当します。IMSへの理解、プロジェクト管理、エフェクチュエーションなどイノベーションに必要な力量を習得するサービスです。



スタートアップ



ISO56001の基礎知識習得と理解度テスト、および修了証の発行
これにより、要求事項である「力量」「人材」などに対応


無料情報公開サイト:イノベーション・ワールド

INNOVATION world
新時代のイノベーションとDXの最新情報メディア

記事一覧 特集 カテゴリ ABOUT 検索 [コンシェルジュへ相談](#)

ALL

すべての記事




ビジネスコンポーザビリティ

変化に強い企業をつくるイノベーション戦略

特集記事
変化をチャンスに変える働き方改革
——イノベーションの土台づくり

働き方改革を単なる労働環境の改善ではなく、イノベーション創出の基盤と位置づけ、その関係性を解説します。柔軟な働き方や多様性の促進、心理的安全性の向上が組織と個人の創造性を高め、新たな価値を生み出す環境づくりにどのように貢献するかを、具体的な事例を交えて紹介しています。

INNOVATION WORLD 編集部
2025.04.14 #働き方改革




ビジネスコンポーザビリティ

変化に強い企業をつくるイノベーション戦略

特集記事
ビジネスコンポーザビリティ：変化に強い企業をつくるイノベーション戦略

企業が持続的に成長するためには「柔軟に再構成できる組織」が必要です。この記事では、Gartnerの「ビジネス・コンポーザビリティ」概念を中心に、変化に強い企業を実現するための戦略と実践ステップを解説。ISO 56001 / 56002との関係や、AmazonやMicrosoftの事例、日本企業の課題とその解決方法を示しています。変化をチャンスに変える組織づくりのヒントを提供しています。


INNOVATION WORLD 編集部
2025.04.10 #ISO56001関連 #人材育成と組織開発



初めてのイノベーション・マネジメントシステム


国際標準規格：ISO56001 / ISO56002の基礎を知る

Most Popular




ISO56002（イノベーション・マネジメントシステム）の認証を取得した企業

INNOVATION WORLD 編集部




（開催終了）3月4日セミナー開催 | 新たなビジネスを確実に生みスケールさせる方法

INNOVATION WORLD 編集部




4月16日セミナー開催 | はじめてのイノベーション・マネジメントシステム 国際標準規格：ISO56001 / ISO56002の基礎を知る

INNOVATION WORLD 編集部



イノベーション活動に対する評価の基本的な考え方

INNOVATION WORLD 編集部




2024年イノベーションに関する調査レポートを公開

INNOVATION WORLD 編集部

私たちの知識・ノウハウを公開

<https://innovation.systemcon.co.jp/>

 System Concierge

ご清聴ありがとうございました。



<https://systemcon.co.jp/contact/>

03-5577-5735

innovation@systemcon.co.jp

株式会社システムコンシェルジュ
イノベーション推進室 大塚